

# 学 習 要 項

第 1 学年

2 0 1 3



東京女子医科大学

看護学部

# 目 次

東京女子医科大学 建学の精神、大学の理念	.....
看護学部の教育理念、教育目的、教育目標、第1学年教育目標	.....
授業科目および単位数	.....
養護教諭一種免許課程に関する科目および単位数	.....
臨地実習における個人情報保護に関する指針	.....

## 科目別到達目標・講義スケジュール

### 人間の本質を問う

生物としての人間	.....
栄養代謝学	.....
人体の構造と機能	.....
人間発達論	.....
生体の化学	.....
人間援助論 I	.....
哲学	.....

### 生活している人間の環境

生活科学論	.....
史学	.....

### 健康障害と生活の調整

病態学・概論	.....
人間工学	.....

### 働きかけの基本 看護活動

看護学・概論	.....
基礎看護学・各論 I (生活援助論)	.....
基礎看護学・各論 II (診療に伴う援助論)	.....
基礎看護学・各論 III (看護過程論)	.....
基礎看護学実習 I	.....
基礎看護学実習 II	.....

### 人間性を育む

フィットネスの理論と実技	.....
英語 I - 1 : A	.....
英語 I - 1 : B, C	.....
ドイツ語 I	.....
日本語学	.....
美術	.....
音楽	.....

各専門領域への発展

- 情報科学演習 I .....
- キャリア発達論 I .....
- 国際看護コミュニケーション I .....

第1 学年授業担当教員 .....

カレンダー

# 東京女子医科大学

## I. 建学の精神

東京女子医科大学は、1900年（明治33年）に創立された東京女醫學校を母体として設立された。東京女子医科大学の創立者である吉岡彌生は、1952年（昭和27年）新制大学設立に際し、東京女醫學校創立の主意をもって建学の精神とした。その主旨は、高い知識・技能と病者を癒す心を持った医師の育成を通じて、精神的・経済的に自立し社会に貢献する女性を輩出することであった。新制大学設立時の学則には「医学の蘊奥を究め兼ねて人格を陶冶し社会に貢献する女性医人を育成する。」と記されている。

建学の精神に基づく医療人育成の場として、1998年（平成10年）度より新たに看護学部が新設された。医療を行うものが学ぶ学府として、現在の東京女子医科大学の使命は、最良の医療を実践する知識・技能を修め高い人格を陶冶した医療人および医学・看護学研究者を育成する教育を行うことである。大学建学の精神に基づき、大学教育では社会に貢献する女性の医療人を育成する。

## II. 大学の理念

東京女子医科大学の使命を達成するための教育・研究・診療の基盤となる理念は、「至誠と愛」である。至誠は、「常住不断私が患者に接するときの根本的な心構えを短い二つの文字のなかに言い現したもの（吉岡彌生傳）」という創立者吉岡彌生の座右の銘であり、「きわめて誠実であること」「慈しむ心（愛）」は教育・研究・診療の総ての場において求められる。大学およびそこに学び働くものは本学の理念である「至誠と愛」に従って活動しなくてはならない。

## 看護学部の教育理念

本学部は「女性の社会的地位の向上と経済的自立を目指すと共に、至誠と愛の精神に基づき医療を行う人材を育成する」という創立者吉岡彌生の趣旨を受けつぎ、これを教育の基本理念とする。

本学部における教育は学生が自ら学び成長しようとする向上心を側面から支援することであると考えます。それは、学生一人一人の個性を尊重する教師と、自ら学ぼうとする学生との真剣な相互作用の過程において創られるものである。

## 看護学部の教育目的

本学部は、建学の精神に基づき、変動する社会情勢の中で看護の役割を認識し、責任を自主的に果たし得る看護実践者を育成する。すなわち、いかなる状況下においても、医療倫理を遵守し、至誠と愛の精神に基づいて行動できる看護職者としての基礎を確立することを目的とするものである。さらに、本学部の教育は、看護の専門性を追求し、看護学の発展に寄与できるための基礎を養うものである。

## 看護学部の教育目標

看護はあらゆる健康のレベルにある人々を対象とし、それらの人々の健康レベルの向上を目指して援助を行うものであり、この援助活動は、人々の生活を尊重し、人間理解に根ざした関係を基盤として、継続的に行われるものである。看護は人間としてさげられない「生・老・病・死」とかかわりを持ちながら、対象者との密接な人間関係を通して行われていくものである。したがって、看護者には豊かな人間性と科学的思考に支えられた創造的・主体的行動が求められる。

本学部は以下の教育目標を掲げる。

- 1) 豊かな人間性を養い、生活者としての人間を理解する基礎能力を養う。
- 2) 看護実践に必要な科学的思考および看護の基本技術を身につけ、人間関係を基盤として、健康問題を解決する能力を養う。
- 3) 社会情勢の変化に応じて、保健・医療・福祉チームの中で主体的かつ協調的に看護の役割を果たすとともに、現状を変革する基礎能力を養う。
- 4) 研究の基礎能力を養う。
- 5) 専門職者として自己の能力を評価し、自己成長のできる基盤を養う。
- 6) 国際的な視野に立って活動できる基礎能力を養う。

## 第1学年教育目標

- 1) 人間生活と健康との関りを、地域住民の生活や自身の生活を通して理解する。
- 2) 人間理解の基礎となる知識、および看護活動の基礎となる知識・技術を学ぶ。
- 3) 自主性を養い、主体的な学習態度の基礎を確立する。
- 4) 感性を磨き、人間関係の基本を学ぶ。

看護学部の授業科目および単位数

開講区分	授 業 科 目	単位数		コマ数	配当年次および単位数								卒業に必要な単位数	
		必修	選択		1年次		2年次		3年次		4年次			
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
人間の 本質を問う	心 理 学	1		15			1							1
	生物としての人間	2		15	2									2
	栄 養 代 謝 学	2		23	1	1								2
	人体の構造と機能	4		45	2	2								4
	人 間 発 達 論	1		8	1									1
	人 間 関 係 論	1		15				1						1
	生 体 の 化 学	1		8		1								1
	人 間 援 助 論 I	1		15	1									1
	医療における倫理学	2		15			2							2
	人 間 援 助 論 II		1	8								1		3
	哲 学		1	8	1									
	女 性 論		1	8								1		
	論 理 学		1	8			1							
	計	15	4	191	8	4	4	1	0	0	2	0		18
生活している人間の環境	生 体 防 御 機 構	1		15			1							1
	感 染 看 護	1		8			1							1
	疫 学	1		15								1		1
	医療行政・関係法規	2		30							1	1		2
	社 会 福 祉 学	1		15			1							1
	家 族 関 係 論	1		8					1					1
	公 衆 衛 生 学(養選)(保選)		2	15					2					0
	文 化 人 類 学		1	8								1		3
	社 会 と 人 間		1	8			1							
	生 活 科 学 論		1	8	1									
	人 間 生 活 と 法		1	15									1	
	人 間 生 活 と 経 済		1	8				1						
史 学		1	8	1										
計	7	8	161	2	0	4	1	3	0	2	3		10	
健康障害と生活の調整	健 康 科 学 論	1		15					1					1
	薬 理 学	2		23			1	1						2
	病 態 学 ・ 概 論	2		15		2								2
	病態学・各論Ⅰ(内科系)	4		60			2	2						4
	病態学・各論Ⅱ(外科系)	2		30			1	1						2
	病態学・各論Ⅲ(小児)	1		15				1						1
	病態学・各論Ⅳ(母性)	1		15				1						1
	病態学・各論Ⅴ(老年)	1		8				1						1
	病態学・各論Ⅵ(精神)	1		8				1						1
	人 間 工 学	1		8	1									1
	保 健 医 療 行 動 科 学	1		15									1	1
	リハビリテーション	1		8				1						1
	医 学 特 論		1	8									1	0
計	18	1	228	1	2	4	9	1	0	0	2		18	

開講区分	授 業 科 目	単位数		コマ数	配当年次および単位数								卒業に必要な単位数		
		必修	選択		1年次		2年次		3年次		4年次				
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
働きかけの基本 看護活動	看護学・概論	2		15	2										2
	基礎看護学・各論Ⅰ (生活援助論)	2		30	2										2
	基礎看護学・各論Ⅱ (診療に伴う援助論)	2		30		2									2
	基礎看護学・各論Ⅲ (看護過程論)	1		15		1									1
	成人看護学・概論	1		8			1								1
	成人看護学・各論Ⅰ (健康各期の看護)	2		23			2								2
	成人看護学・各論Ⅱ (専門領域の探求)	2		23				2							2
	フィジカルアセスメント	1		15			1								1
	老年看護学・概論	1		15				1							1
	老年看護学・各論	2		23					2						2
	小児看護学・概論	1		8				1							1
	小児看護学・各論	2		30					2						2
	母性看護学・概論	1		8				1							1
	母性看護学・各論	2		30					2						2
	地域看護学・概論	1		8					1						1
	地域看護学・各論	2		23					2						2
	精神看護学・概論	1		8				1							1
	精神看護学・各論	2		23						2					2
	在宅看護論	2		15					2						2
	基礎看護学実習Ⅰ	1		23	1										1
	基礎看護学実習Ⅱ	2		45		2									2
	成人看護学実習Ⅰ	2		45				2							2
	成人看護学実習Ⅱ	4		90						4					4
	老年看護学実習	2		45						2					2
	小児看護学実習	2		45						2					2
	母性看護学実習	2		45						2					2
	地域看護学実習Ⅰ	2		45						2					2
	地域看護学実習Ⅱ(保選)		4	90								4			0
	精神看護学実習	2		45								2			2
	統合実習Ⅰ	2		45								2			2
	統合実習Ⅱ	2		45								2			2
	健康教育学(養選)(保選)		1	15							1				0
	公衆衛生看護活動展開論(保選)		2	15						2					0
公衆衛生看護管理論(保選)		1	8						1					0	
コミュニケーションの理論と実際(養選)		1	15								1			0	
計	53	9	1011	5	5	4	8	14	15	11	0			53	

開講区分	授 業 科 目	単位数		コマ数	配当年次および単位数								卒業に必要な単位数		
		必修	選択		1年次		2年次		3年次		4年次				
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
人間性を育む	フィットネスの理論と実技	2		30	1	1									2
	英 語 I - 1	2		30	1	1									2
	英 語 I - 2	2		30			1	1							2
	英 語 II	2		30					1	1					2
	英 語 III		2	30							1	1			4
	ド イ ツ 語 I		2	30	1	1									
	ド イ ツ 語 II		2	30			1	1							
	フ ラ ン ス 語 I		2	30			1	1							
	フ ラ ン ス 語 II		2	30					1	1					3
	中 国 語		2	30					1	1					
	日 本 語 学		2	23	1	1									
	美 術		2	30	1	1									
	音 楽		2	30	1	1									3
	パフォーマンス芸術論	1		15										1	
国 際 関 係 論		1	8										1		
計	8	20	406	6	6	3	3	3	3	1	3			15	
各専門領域への発展	保健医療統計学	1		15					1						1
	情報科学演習Ⅰ	1		15	1										1
	情報科学演習Ⅱ	1		15				1							1
	リエゾン精神看護	1		8									1		1
	研究 方 法 論	1		15					1						1
	キャリア発達論Ⅰ	1		15	1										1
	キャリア発達論Ⅱ	1		15			1								1
	キャリア発達論Ⅲ	1		15					1						1
	キャリア発達論Ⅳ	1		15								1			1
	卒 業 論 文	1		15								1			1
	国際看護コミュニケーションⅠ☆		2	23	(1)	(1)	1	1	(1)	(1)	(1)	(1)			0
	国際看護コミュニケーションⅡ☆		2	23			(1)	(1)	1	1					0
	国際看護コミュニケーションⅢ☆		2	30			(1)	(1)	(1)	(1)	1	1			0
	国 際 看 護		2	15							1	1			0
計	10	8	234	2	0	2	3	3	1	4	3			10	
合 計	111	50	2231	24	17	21	25	24	19	20	11			124	
				41		46		43		31					

(養選)は養護教諭一種免許取得のための選択必修科目。

(保選)は保健師国家試験受験資格を得るための選択必修科目。

ただし、健康教育学、公衆衛生学については3年次選択科目として全員が履修可能。

☆ 印については、海外研修参加年次に履修および単位の認定を行う。

### 卒業に要する単位数

開 講 区 分	卒業に要する単位数		
	必修	選択	合計
人 間 の 本 質 を 問 う	15	3	18
生活している人間の環境	7	3	10
健康障害と生活の調整	18	0	18
働きかけの基本・看護活動	53	0	53
人 間 性 を 育 む	8	7	15
各 専 門 領 域 へ の 発 展	10	0	10
計	111	13	124

前学期

4月 1日 ~ 10月 15日まで

後学期

10月 16日 ~ 翌年 3月 31日まで

(注)「人間性を育む」の選択科目は、語学から4単位以上、その他の科目から3単位以上を履修しなければならない。(詳細は学生便覧を参照のこと)

養護教諭一種免許課程に関する科目および単位数

授 業 科 目	単 位 数	コ マ 数	配当年次および単位数							
			1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
			前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
公衆衛生学	2	15					2			
疫 学 <sup>△</sup>	1	15								1
健康科学論 <sup>△</sup>	1	15					1			
学校保健	2	15						2		
学校保健管理論	1	8								1
養護概説	2	15						2		
健康教育学	1	15						1		
コミュニケーションの理論と実際	1	15								1
栄養代謝学 <sup>△</sup>	2	23	1	1						
人体の構造と機能 <sup>△</sup>	4	45	2	2						
生体防御機構 <sup>△</sup>	1	15			1					
薬 理 学 <sup>△</sup>	2	23			1	1				
精神看護学・概論 <sup>△</sup>	1	8				1				
精神看護学・各論 <sup>△</sup>	2	23						2		
基礎看護学・各論Ⅰ(生活援助論) <sup>△</sup>	2	30	2							
基礎看護学・各論Ⅱ(診療に伴う援助論) <sup>△</sup>	2	30		2						
基礎看護学・各論Ⅲ(看護過程論) <sup>△</sup>	1	15		1						
成人看護学・各論Ⅱ(専門領域の探求) <sup>△</sup>	2	23				2				
成人看護学実習Ⅰ <sup>△</sup>	2	45				2				
母性看護学・概論 <sup>△</sup>	1	8				1				
母性看護学・各論 <sup>△</sup>	2	30					2			
小児看護学・概論 <sup>△</sup>	1	8				1				
小児看護学・各論 <sup>△</sup>	2	30					2			
小児看護学実習 <sup>△</sup>	2	45						2		
地域看護学・各論 <sup>△</sup>	2	23					2			
教 職 入 門	2	15				2				
教育学概論	2	15			2					
教育心理学	2	15				2				
教育課程論	2	15			2					
教育方法論	2	15						2		
生徒指導論	2	15						2		
教育相談	2	15						2		
教職実践演習(養護教諭)	2	15								2
養護実習	5	113								5
日本国憲法★	2	15			2		(2)		(2)	
フィットネスの理論と実技 <sup>△</sup>	2	30	1	1						
英語Ⅰ-1 <sup>△</sup>	2	30	1	1						
情報科学演習Ⅰ <sup>△</sup>	1	15	1							
情報科学演習Ⅱ <sup>△</sup>	1	15				1				

★ 印については、2年次に履修しておくことが望ましい。

△ 印については、卒業に必要な必修科目。

東京女子医科大学看護学部

臨地実習における個人情報保護に関する指針

教務委員会

学則ならびに本学部の教育目的に基づき、学生はいかなる状況下においても医療倫理を遵守することが求められる。本学部学生が臨地実習を行う場合には、以下の学則ならびにガイドライン等に基づき、実習で受け持つ患者様等の個人情報を保護するものとする。

(1) 学則 第 11 章 学生に関する規定

(学生に関する規定)

第 36 条 個人情報保護に関する本学のガイドラインに則り、学生生活で得られる個人情報は学習の目的のみに利用し、これを生涯守秘することを義務とする。  
なお、指示に応じてその都度所定の誓約書に署名するものとする。

2. 本学則の定めるもののほか、学生に関する規定を別に定める。

(2) 東京女子医科大学における個人情報の保護に関するガイドライン

(3) 東京女子医科大学における情報公開の指針

具体的には、以下の点に留意することとする。

- ①診療録・看護記録等の閲覧は施設内の決められた場所で行うこと。
- ②実習記録には個人が特定できる情報は記載しないこと。
- ③実習記録は厳重に保管し紛失しないこと。
- ④実習終了後は、実習記録を個人の責任のもとに断裁処分すること。

科目別到達目標  
講義スケジュール

人間の本質を問う

## [生物としての人間]

科目責任者：鳥山 優

## 目的

人間は地球上で唯一、文明を持つ生物である。医療も看護も人類が築いた文明の延長上にある。しかし、人間も生物の一種であることに違いはない。この授業では人間の生物学的特徴を理解することによって、まず、人間が他の生物と同じように生命活動を営みながら、他の生物とともに生きていかなければならないことを理解する。その上で、人間のみが有する生物学的特徴について理解し、そこで生じる問題について考えていく。この授業を通して、看護の対象が「ただの人間」ではなく「生物としての人間」であることを実感してもらいたい。

## 到達目標

1. 動物が食べなければ生きていけない生き物であることを説明できる。
2. 食事と呼吸と心臓の鼓動の間に関係について、細胞のエネルギー生産の観点から説明できる。
3. ヒトが生きる上で調節の必要性を説明できる。
4. 脳の働きとそこから生じるヒトという動物の特徴について説明できる。
5. 遺伝子の働きについて説明できる。
6. 環境との関係において、ヒトと他の動物との違いを説明できる。
7. ヒトを総合的に捉え、人類の未来に関して考察できる。

大項目	中項目	小項目
I. 人間の生物学	1. 生命とはなにか	1) 人間の生物学を勉強するにあたって 2) 生物界における人間の位置づけ
II. ヒトが生きるしくみ	1. 動物はどんな生き物？	1) 動物にとって大切な器官とは？ 2) 食べることの意味
	2. 消化と吸収	1) 消化・吸収のしくみ 2) 動くことの意味
	3. 生き物をつくる単位, 細胞	1) 細胞の構造 2) 細胞の活動源
	4. 神経のはたらき	1) 動物の動きと神経 2) 神経による統合
	5. 自律神経とホルモンによる調節	1) 恒常性の維持 2) 血糖値の維持のしくみ
	6. ヒトが生きるしくみ	1) タンパク質の代謝 2) 尿素の生成と排泄
	7. 人間の最大の特徴, 大脳	1) 生きるための脳, 脳幹 2) うまく生きるための脳, 大脳
III. 遺伝と遺伝子	1. ヒトの発生	1) 受精と卵割, 着床 2) 胚葉形成と器官形成
	2. 遺伝子とDNA-1-	1) 遺伝子とは？ 2) DNAの構造とはたらき
	3. 遺伝子とDNA-2-	1) 遺伝情報と塩基配列 2) 遺伝暗号の使われ方
	4. 遺伝子と染色体	1) 細胞分裂と染色体 2) 染色体の構造

## 生物としての人間

大項目	中項目	小項目
IV. 環境と人類の未来	1. 生物と環境	1) 食物連鎖 2) 進化のために必要な条件
	2. 地球環境と人間	1) 人間の活動と外来生物の侵入 2) 人間はどのような生き物か?
	3. 人類の未来と医療	1) 特殊な生物, 人間 2) 人類の発達と遺伝子負荷

### 成績評価の方法：

授業ごとに提出してもらったレポートのみで評価する。レポートは授業のまとめと、授業を受けて考えたことを書いてもらう形式で、新たに何かを調べる必要はない。

### 教科書：

堀輝三, 巨智部直久著 看護学生のための生物学 医学書院  
 坂井健雄・岡田隆夫 系統看護学講座専門基礎分野人体の構造と機能[1]解剖生理学 医学書院 2009  
 (ほぼ毎回プリントを配布する)

### 参考図書：

霜田幸雄, 城座映明編著 シリーズ看護の基礎科学 からだのしくみ 生理学・分子生物学 I, II  
 日本看護協会出版会  
 Herlihy, Maebius 著 ヒューマンボディ エルゼビアジャパン  
 (尾岸恵三子・片桐康雄 監訳)

### <講義スケジュール>

1	2013.	4. 19	金	14:35~16:00	鳥山 優	生命とはなにか	大教室
2		5. 7	火	16:10~17:35	鳥山 優	動物はどんな生き物?	大教室
3		5. 17	金	14:35~16:00	鳥山 優	消化と吸収	大教室
4		6. 14	金	14:35~16:00	鳥山 優	生き物をつくる単位, 細胞	大教室
5		6. 18	火	16:10~17:35	鳥山 優	神経のはたらき	大教室
6		7. 5	金	14:35~16:00	鳥山 優	自律神経とホルモンによる調節	大教室
7		9. 13	金	14:35~16:00	鳥山 優	ヒトが生きるしくみ	大教室
8		9. 27	金	14:35~16:00	鳥山 優	人間の最大の特徴, 大脳	大教室
9		10. 8	火	16:10~17:35	鳥山 優	ヒトの発生	大教室
10		10. 22	火	16:10~17:35	鳥山 優	遺伝子とDNA-1-	大教室
11		11. 5	火	16:10~17:35	鳥山 優	遺伝子とDNA-2-	大教室
12		11. 19	火	16:10~17:35	鳥山 優	遺伝子と染色体	大教室
13		12. 4	水	09:00~10:25	鳥山 優	生物と環境	大教室
14	2014.	1. 7	火	16:10~17:35	鳥山 優	地球環境と人間	大教室
15		2. 12	水	09:00~10:25	鳥山 優	人類の未来と医療	大教室

[栄養代謝学]

科目責任者：伊東栄子

目的

日本人の食と栄養、食事摂取の基本を理解した上で、消化吸収された栄養素からのエネルギー獲得（異化作用）と自身の身体を構築（同化作用）するメカニズムを学ぶ。さらに、日常の食事摂取により生じる生活習慣病と異化・同化作用の関連についての理解を深める。

到達目標

1. 健康をもたらす食物中の栄養素を列挙し、その役割を記述できる。
2. 食事摂取基準の概念を説明できる。
3. 乳幼児期から老年期までの各ライフステージにおける身体的な特徴から、必要な栄養を説明できる。
4. 自分自身の食を分析し、食の改善を図れる。
5. 糖質、脂質とタンパク質の消化吸収を記述できる。
6. 糖質、脂質とタンパク質の異化と同化の関連を明確に述べられる。
7. 同化により生成された、体内の糖質、脂質とタンパク質の役割を記述できる。
8. 物質代謝の観点から生活習慣病を説明できる。

大項目	中項目	小項目
I. 日本人の食と栄養	1. 健康と栄養 2. 日本人の食事摂取基準 3. 食物と栄養 4. ライフステージと栄養 5. 食のアセスメント	1) 各栄養素と人体との関連 2) 栄養状態の判定(BMI等)、低栄養と過剰栄養 1) 概要と考え方 2) 推定エネルギー必要量（基礎代謝、身体活動レベル） 1) 食品の種類と栄養素 2) 食品中の栄養素とその役割 3) 栄養価 1) 乳幼児期 2) 学童期 3) 思春期 4) 成人期 5) 老年期 1) 自己の食の分析および改善計画
II. 代謝の基本概念	1. 代謝とエネルギー 2. 酵素反応	1) 生体物質の異化と同化 2) エネルギーの産生・貯蔵・消費 1) 反応機構 2) ビタミンの役割 3) 調節機構
III. 物質の代謝	1. 糖質の代謝 2. タンパク質の代謝	1) 消化と吸収 2) 嫌氣的解糖 3) 好氣的解糖 4) グリコーゲン代謝 5) 糖新生 6) ペントース代謝 1) 消化と吸収 2) タンパク質の代謝 3) アミノ酸の代謝 4) 窒素平衡

栄養代謝学

大項目	中項目	小項目
	3. 脂質の代謝	1) 消化と吸収 2) 脂肪酸の代謝 3) トリアシルグリセロールの代謝 4) コレステロールの代謝 5) リン脂質の代謝
	4. 核酸の代謝	1) ヌクレオチドの代謝 2) タンパク質生合成
IV. 代謝と疾病	1. 生活習慣病 2. 食と疾病	1) 生活習慣病の概要 1) 低栄養による疾病（クワシオルコル、マラスマス） 2) 過剰栄養による疾病（高脂血漿、高尿酸血漿、インスリン非依存性糖尿病）

成績評価の方法：課題提出と筆記試験

教科書：竹田稔他 系統看護学講座 人体の構造と機能 [2] 生化学	医学書院	2009
中村丁次他 系統看護学講座 人体の構造と機能 [3] 栄養学	医学書院	2010
新食品成分表フーズサポーター付き	一橋出版	2011

参考図書：岡野栄之 目で見える生化学入門 vol.1～vol.6 医学映像教育センター 2006

<講義スケジュール>

1	2013. 4. 18	木	09:00～10:25	伊東栄子	健康と栄養、栄養状態の判定	大教室
2	4. 19	金	09:00～10:25	伊東栄子	食物と栄養	大教室
3	4. 19	金	10:35～12:00	伊東栄子	エネルギー代謝、食事摂取基準	大教室
4	4. 24	水	16:10～17:35	伊東栄子	ライフステージと栄養	大教室
5	5. 14	火	09:00～12:00	伊東栄子	食事調査と尿検査①	科学実験室
5	5. 21	火	13:00～16:00	伊東栄子	食事調査と尿検査①	科学実験室
6	5. 30	木	10:35～12:00	伊東栄子	「尿にみる食」と「お弁当箱法」	大教室
7	6. 5	水	14:35～16:00	伊東栄子	グループワークによる分析と討論	食堂
8	6. 12	水	14:35～16:00	伊東栄子	分析結果報告会と献立の立案	食堂
9	6. 18	火	13:00～16:00	伊東栄子	食事調査と尿検査②	科学実験室
9	7. 2	火	09:00～12:00	伊東栄子	食事調査と尿検査②	科学実験室
10	10. 24	木	14:35～16:00	伊東栄子	代謝の基本概念1 代謝とエネルギー	大教室
11	10. 25	金	09:00～10:25	伊東栄子	代謝の基本概念2 酵素と補酵素	大教室
12	10. 29	火	16:10～17:35	伊東栄子	三大栄養素の消化吸収	大教室
13	11. 1	金	09:00～10:25	伊東栄子	物質の代謝1 糖質代謝1	大教室
14	11. 1	金	10:35～12:00	伊東栄子	物質の代謝2 糖質代謝2	大教室
15	11. 6	水	16:10～17:35	伊東栄子	物質の代謝3 糖質代謝3	大教室
16	11. 7	木	16:10～17:35	伊東栄子	物質の代謝4 脂質代謝1	大教室
17	11. 13	水	16:10～17:35	伊東栄子	物質の代謝5 脂質代謝2	大教室
18	11. 14	木	16:10～17:35	伊東栄子	物質の代謝6 タンパク質代謝1	大教室
19	11. 15	金	09:00～10:25	伊東栄子	物質の代謝7 タンパク質代謝2	大教室
20	11. 15	金	10:35～12:00	伊東栄子	物質の代謝8 核酸代謝	大教室
21	11. 21	木	14:35～16:00	伊東栄子	生活習慣病	大教室
22	11. 21	木	16:10～17:35	伊東栄子	食と疾病	大教室
23	11. 22	金	09:00～10:25	伊東栄子	試験	中教室・視聴覚室

[人体の構造と機能]

科目責任者：神山暢夫

科目担当者：神山暢夫

【目的】

私たちは「生きて」いて、様々な活動をすることで生活している。これらの活動を可能としているのは身体の中にある様々な器官である。ただじっと「生きて」いるだけでも、身体の中ではいろいろな器官がお互いに協調して機能している事が必要である。[人体の構造と機能]では、これらの諸器官がどのようなしくみで機能しているか、そしてその機能を実現するために、どのような構造になっているのかを学ぶ。今後、上位の学年で看護、医療の専門分野を学習する際に必要不可欠となる知識を身に付ける。

【到達目標】

1. 医療分野における専門的な用語を習得し、理解して使えるようにする。
2. 体内に存在する各器官の名称と意義を理解する。
3. 生命を維持する諸器官の構造と機能を学び、その意義を理解する。
4. 日常行動を支える諸器官の役割や相互作用を理解する。
5. 他科目で習得した知識との統合を行なって、人体についての理解を発展的に展開する。

大項目	中項目	小項目
I. 生体を構成する要素	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 細胞</li> <li>2. 組織</li> <li>3. 器官</li> <li>4. 系統</li> </ol>	4大組織（上皮組織、結合組織 筋組織、神経組織）
II. 身体の支持を行う器官 (皮膚および骨格系)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 皮膚の構造と機能</li> <li>2. 骨の基本構造と機能</li> <li>3. 全身の骨の構成</li> <li>4. 関節と靭帯の基本構造と機能</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 表皮、真皮、皮下組織</li> <li>2) 付属器官（毛、爪、汗腺）</li> <li>1) 骨の構造と組成</li> <li>2) 化骨とカルシウム代謝</li> <li>1) 頭蓋を構成する骨とその特徴</li> <li>2) 胴体を構成する骨とその特徴</li> <li>3) 上肢を構成する骨とその特徴</li> <li>4) 下肢を構成する骨とその特徴</li> <li>骨盤</li> <li>1) 関節の種類</li> <li>2) 関節の作用</li> </ol>
III. 血液とリンパ液	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 血液の組成と機能</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 血球（赤血球、白血球、血小板）および造血組織</li> <li>2) 血漿</li> <li>3) 血液凝固</li> </ol>
IV. 循環を行う器官 A血液循環	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心臓の構造</li> <li>2. 心臓の機能</li> <li>3. 血管の構造と機能</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 心房と心室</li> <li>2) 大動脈と大静脈</li> <li>3) 冠状血管</li> <li>1) 心臓の興奮と伝播</li> <li>2) 心電図</li> <li>3) 心臓の収縮（心周期）</li> <li>4) 血圧と脈拍</li> <li>1) 血管の種類と特徴 (動脈、静脈、毛細管)</li> <li>2) 動脈と静脈の分布</li> </ol>

人体の構造と機能

大項目	中項目	小項目
Bリンパ循環	4. 循環経路  1. リンパ系の構成 2. 全身のリンパ	1) 体循環 2) 肺循環 3) 門脈循環 4) 胎児循環 1) リンパ節、リンパ管 1) リンパ節の分布 2) 胸管とリンパ本幹 3) 扁桃と胸腺
V. 呼吸を行う器官 (呼吸器系)	1. 気道の構造と機能  2. 肺の構造  3. 肺の機能	1) 気道の区分 (鼻腔、咽頭、喉頭、気管、気管支) とその特徴  1) 肺の外形 2) 区域気管支と肺胞 3) 胸膜と縦隔 1) 呼吸運動 2) 肺気量 3) ガス交換 4) 呼吸と酸塩基平衡 5) 呼吸調節
VI. 代謝に関わる器官 A 消化器系	1. 消化器官の構造  2. 消化器官の機能	1) 消化管 (口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸) とその特徴 2) 消化腺 (唾液腺、膵臓、肝臓、胆嚢) とその特徴 1) 消化管の運動 2) 消化管の分泌 (消化酵素、消化管ホルモン) 3) 消化と吸収
B 泌尿器系	1. 泌尿器の構造  2. 尿の生成と水分調節	1) 腎臓の構造とネフロンの機能 2) 尿路 (尿管、膀胱、尿道) 1) 糸球体濾過 2) 尿細管での輸送 3) 腎機能の調節 4) 排尿
C 体温調節系	1. 体温の分布  2. 熱放散  3. 熱産生  4. 体温調節	1) 核心温度 2) 外殻温度 1) 放射 2) 伝導 3) 蒸散 1) ふるえ 2) 非ふるえ 1) 温度受容 2) 体温調節中枢 3) 発熱
VII. 運動を行う器官 (筋系)	1. 筋の基本構造と機能	1) 筋の種類 (横紋筋、平滑筋、心筋) 2) 筋原線維の構造 3) 筋収縮の機構 4) 反射

大項目	中項目	小項目
<p>VIII. 体の働きを調節し、情報の処理や創造を行う器官</p> <p>A 神経系</p> <p>B 内分泌系</p> <p>C 感覚器系</p> <p>IX. 生殖と発生に関わる器官</p>	2. 全身の筋の構成とその作用	1) 表情筋と咀嚼筋 2) 体幹の筋 3) 上肢の筋 4) 下肢の筋
	1. 神経の基本構造と機能	1) ニューロンの構造と種類 2) 刺激と興奮 3) 膜電位（静止電位、活動電位） 4) 興奮の伝導 5) シナプス伝達
	2. 中枢神経の分類（脳と脊髄）	1) 脳の区分（大脳、間脳、中脳、小脳、橋、延髄）とその構造 2) 脊髄
	3. 中枢神経の機能（各種機能中枢）	1) 大脳皮質と連合野 2) 間脳の働き 3) 脳幹の働き 網様体と生命中枢 4) 小脳の働き 5) 脊髄の働き 6) 反射 7) 伝導路
	4. 末梢神経の分布と機能	1) 脳神経の分布 2) 脊髄神経の分布 3) 知覚神経と運動神経
	5. 自律神経系	1) 交感神経 2) 副交感神経
	1. 内分泌器官の構造と機能	1) 下垂体とそのホルモン 2) 甲状腺と上皮小体 3) 副腎とランゲルハンス島 4) 松果体および性腺
	1. 視覚	1) 眼球の構造 2) 副眼器（眼筋、涙腺） 3) 結像と色感覚 4) 視覚の投射
	2. 聴覚と平衡覚	1) 耳の構造（外耳、中耳、内耳） 2) 音の伝導と平衡覚 3) 聴覚の投射
	3. その他の感覚	1) 味覚 2) 嗅覚 3) 皮膚感覚 4) 内臓覚と深部覚
	1. 男性生殖器	1) 精巣と精子形成 2) 精子の通路（精巣上体、精管、精嚢）と付属腺（前立腺、尿道球腺）
	2. 女性生殖器	1) 女性生殖器の構造（卵巣、卵管、子宮） 2) 卵子形成、排卵と性周期
	3. ヒトの発生	1) 受精、着床と胎盤 2) 初期発生と先天異常

## 人体の構造と機能

成績評価の方法：筆記試験

### 教科書

坂井健雄・岡田隆夫 系統看護学講座専門基礎分野  
解剖生理学・人体の構造と機能 医学書院 2009

### 参考図書

#### \*解剖学

塩田浩平 他訳 グレイ解剖学 原著第2版 エルゼビアジャパン 2011  
H. Frick et al 人体解剖学ハンドブック 1,2 西村書店 2000  
(大谷修 監訳)  
藤田恒夫・藤田尚男 標準組織学4版 医学書院 2002  
トートラ 人体解剖生理学8版  
(佐伯 他訳) 丸善 2011

#### \*生理学

大地陸男 生理学テキスト6版 文光堂 2010  
小澤澁司他 標準生理学7版 医学書院 2009  
岡田隆夫他 集中講義・生理学 メジカルビュー 2009

#### \*解剖生理学

Herlihy, Maebius 著 ヒューマンボディ からだの不思議がわかる解剖生理学  
(片桐康雄 他訳) エルゼビアジャパン 2008  
飯島治之 解剖生理学がわかる 技術評論社 2012  
シェフラー, シュミット からだの構造と機能  
(三木明德 他訳) 西村書店 1998  
下 正宗他編 コアテキスト1, 人体の構造と機能 医学書院 2010  
パーカー 見える人体  
(佐藤達夫 他訳) 南江堂 2009

<講義スケジュール>

1	2013.	4. 15	月	14:35～16:00	神山 暢夫	人体の構造と機能の概要、人体の構成	大教室
2		4. 22	月	9:00～10:25	神山 暢夫	細胞の中と外、細胞膜と生理機能	大教室
3		5. 7	火	10:35～12:00	神山 暢夫	血液の組成と機能	大教室
4		5. 13	月	9:00～10:25	櫻井 恒太郎	循環器の概要、心臓の構造	大教室
5		5. 16	木	9:00～10:25	櫻井 恒太郎	血管の構造と分布、体循環と肺循環	大教室
6		5. 20	月	9:00～10:25	櫻井 恒太郎	特殊な循環経路（胎児、門脈）、リンパ液循環	大教室
7		5. 23	木	9:00～10:25	櫻井 恒太郎	心臓の機能	大教室
8		5. 27	月	9:00～10:25	櫻井 恒太郎	心臓の機能と心電図	大教室
9		5. 30	木	9:00～10:25	櫻井 恒太郎	循環器の機能	大教室
10		6. 3	月	13:00～14:25	神山 暢夫	呼吸器系の概要	大教室
11		6. 10	月	9:00～10:25	神山 暢夫	肺と胸膜、気道の構造	大教室
12		6. 17	月	9:00～10:25	神山 暢夫	呼吸のメカニズム	大教室
13		6. 18	火	10:35～12:00	神山 暢夫	ガス交換	大教室
14		6. 26	水	13:00～14:25	鈴木 義司	骨格系の概要	大教室
15		6. 26	水	14:35～16:00	鈴木 義司	全身の骨格	大教室
16		7. 1	月	10:35～12:00	神山 暢夫	泌尿器系の概要、腎臓の構造	大教室
17		7. 8	月	10:35～12:00	神山 暢夫	尿の生成、糸球体濾過	大教室
18		7. 9	火	10:35～12:00	神山 暢夫	尿細管での再吸収、排尿機構	大教室
19		9. 2	月	9:00～10:25	神山 暢夫	体液調節とイオンバランス、酸塩基平衡	大教室
20		9. 9	月	9:00～10:25	神山 暢夫	中間試験	視聴覚室・中教室
21		9. 17	火	10:35～12:00	神山 暢夫	皮膚の構造と機能	大教室
22		9. 24	火	16:10～17:35	神山 暢夫	消化器系の概要と消化のメカニズム	大教室
23		9. 25	水	13:00～14:25	神山 暢夫	栄養の吸収と代謝	大教室
24		10. 1	火	10:35～12:00	神山 暢夫	上部消化管	大教室
25		10. 2	水	16:10～17:35	神山 暢夫	下部消化管と肝、胆、膵	大教室
26		10. 8	火	10:35～12:00	神山 暢夫	生殖器系の概要と男性生殖器	大教室
27		10. 11	金	10:35～12:00	神山 暢夫	女性生殖器、性周期と初期発生	大教室
28		10. 15	火	16:10～17:35	神山 暢夫	神経系の概要	大教室
29		10. 16	水	16:10～17:35	神山 暢夫	ニューロンの構造と機能	大教室
30		10. 25	金	10:35～12:00	神山 暢夫	活動電位と興奮の伝導	大教室
31		10. 28	月	10:35～12:00	神山 暢夫	シナプス伝達	大教室
32		10. 30	水	10:35～12:00	神山 暢夫	筋系の概要、筋の微細構造と筋収縮	大教室
33		11. 6	水	10:35～12:00	神山 暢夫	筋収縮と運動の調節	大教室
34		11. 11	月	10:35～12:00	神山 暢夫	全身の筋、解剖と機能	大教室
35		11. 12	火	16:10～17:35	神山 暢夫	反射のメカニズム	大教室
36		11. 19	火	10:35～12:00	神山 暢夫	中枢神経系：大脳の構造と機能中枢、間脳、 脳幹、小脳、脊髄	大教室
37		11. 20	水	10:35～12:00	神山 暢夫	末梢神経系：脳神経と脊髄神経	大教室
38		12. 4	水	10:35～12:00	神山 暢夫	一般感覚と特殊感覚	大教室
39		12. 9	月	13:00～14:25	神山 暢夫	視覚と聴覚	大教室
40		12. 10	火	16:10～17:35	神山 暢夫	自律神経系：生命維持の調節機構	大教室
41	2014.	1. 6	月	10:35～12:00	神山 暢夫	自律神経系：交感神経と副交感神経 解剖と自律神経反射	大教室
42		1. 7	火	10:35～12:00	神山 暢夫	内分泌系の概要とホルモンの種類	大教室
43		1. 15	水	10:35～12:00	神山 暢夫	内分泌器官とホルモン各論 I	大教室
44		1. 27	月	16:10～17:35	神山 暢夫	ホルモン各論 II、分泌の調節	大教室
45		2. 17	月	10:35～12:00	神山 暢夫	期末試験	視聴覚室・中教室

## [人間発達論]

科目責任者：林智幸

## 目的

人間の発達過程を心理学的観点から学ぶ。誕生から死に至るまでの各発達段階において、認知能力、性格特徴、対人関係の各領域にどのような特徴があるか、その基礎知識を理解する。

## 到達目標

1. 思い込みなどではない、実証的な「心理学的」考え方を理解できる。
2. 個人差を意識しつつ、心的機能に多くの人に共通する法則性があることを理解できる。
3. 行動の影響因である心的機能を、認知、性格、対人関係の各側面から分析できる。
4. 各発達段階の心理的特徴を分析的かつ総合的に理解できる。
5. 身近な人物の心理的特徴を、心理学的に説明できる。

大項目	中項目	小項目
I. 人間発達の基礎	1. 発達心理学の基礎	1) 心理学とは？ 2) 発達心理学の基礎概念 3) 代表的な発達理論
II. 各発達段階の特徴	1. 乳児期の発達心理	1) 乳児の認知能力 2) 乳児の性格特徴 3) 乳児の対人関係
	2. 幼児期の発達心理	1) 幼児の認知能力 2) 幼児の性格特徴 3) 幼児の対人関係
	3. 児童期の発達心理	1) 児童の認知能力 2) 児童の性格特徴 3) 児童の対人関係
	4. 青年期の発達心理	1) 青年の認知能力 2) 青年の性格特徴 3) 青年の対人関係
	5. 成人期の発達心理	1) 成人の認知能力 2) 成人の性格特徴 3) 成人の対人関係
	6. 老年期の発達心理	1) 老人の認知能力 2) 老人の性格特徴 3) 老人の対人関係
III. 発達研究の視点	1. 発達心理学の研究	1) 発達心理学の研究法 2) 発達心理学の歴史

成績評価の方法：

授業参加の積極性やレポート等の得点を総合的に評価する。

教科書：

なし

参考書：

ジョージ バターワース	発達心理学の基本を学ぶ	ミネルヴァ書房	1997
堀野 緑ほか	子どものパーソナリティと社会性の発達	北大路書房	2000

舟島 なをみ	看護のための人間発達学	医学書院	2005
服部 祥子	生涯人間発達論	医学書院	2000
山本 利和 (編)	発達心理学 (現代心理学シリーズ)	培風館	1999

## &lt;講義スケジュール&gt;

1	2013.	4. 15	月	13:00~14:25	林 智幸	発達心理学の基礎	大教室
2		4. 22	月	10:35~12:00	林 智幸	乳児期の発達心理	大教室
3		5. 13	月	10:35~12:00	林 智幸	幼児期の発達心理	大教室
4		5. 20	月	10:35~12:00	林 智幸	児童期の発達心理	大教室
5		5. 27	月	10:35~12:00	林 智幸	青年期の発達心理	大教室
6		6. 3	月	10:35~12:00	林 智幸	成人期の発達心理	大教室
7		6. 10	月	10:35~12:00	林 智幸	老年期の発達心理	大教室
8		6. 17	月	10:35~12:00	林 智幸	発達心理学の研究	大教室

[生体の化学]

科目責任者：伊東栄子

目的

生体機能を理解するためにはその基本に化学的な知識が必要である。この講義では、高校までに学習した化学を再学習し、さらに生体を構成する有機化合物の持つ特性を学ぶことから、生体で起こる事象や機能についての理解を深める。

到達目標

1. 物質と元素の関係を説明できる。
2. 原子を構成する3つの要素を記述できる。
3. イオン結合、共有結合、水素結合の違いを説明できる。
4. pHの定義を記述できる。
5. 水分子の持つ極性を理解し、親水性の物質と疎水性の物質の違いを明確に記述できる。
6. 酸化と還元を説明できる。
7. 有機化合物の定義を説明できる。
8. 糖質、脂質、タンパク質の構成成分を記述できる。
9. 体内における糖質、脂質、タンパク質の機能を列挙できる。
10. タンパク質の機能と立体構造の関係を説明できる。

大項目	中項目	小項目
I. 無機化学の基礎	1. 原子、分子、物質	1) 原子の構造 2) 化学結合 3) 化合物
	2. 酸と塩基	1) イオン 2) pHと緩衝作用
	3. 溶液	1) 溶質と溶媒 2) 水の性質
	4. 酸化と還元	1) 酸化還元反応 2) 生体における酸化還元
II. 有機化学の基礎	1. 有機化合物	1) 定義 2) イオン結合、共有結合、水素結合
	2. 有機化合物の反応	1) 官能基 2) 官能基のはたらき
	3. 糖質	1) 単糖類 2) 多糖類
	4. 脂質	1) 油脂 2) リン脂質 3) ステロイド
	5. タンパク質	1) アミノ酸 2) タンパク質 3) 酵素

成績評価の方法：筆記試験

教科書：なし

参考図書：片桐康雄他監訳 ヒューマンボディ 原著第3版 エルゼビア 2008  
 野島孝彦 はじめて学ぶ化学 化学同人 2012  
 竹田稔他 系統看護学講座 人体の構造と機能 [2] 生化学 医学書院 2009

<講義スケジュール>

1	2013.	9.25	水	14:35~16:00	伊東栄子	物質 原子と分子	大教室
2		9.25	水	16:10~17:35	伊東栄子	酸と塩基 pH	大教室
3		9.30	月	16:10~17:35	伊東栄子	溶液 酸化と還元	大教室
4		10.1	火	09:00~10:25	伊東栄子	有機化合物、エネルギー	大教室
5		10.10	木	16:10~17:35	伊東栄子	糖質	大教室
6		10.11	金	09:00~10:25	伊東栄子	脂質	大教室
7		10.24	木	13:00~14:25	伊東栄子	タンパク質	大教室
8		10.30	水	09:00~10:25	伊東栄子	試験	中教室・視聴覚室

[人間援助論 I]

科目責任者：守屋治代

科目担当者：守屋治代、菊池昭江、見城道子  
味木由佳、天野陽子、徳田玲子

目的：

援助（看護）を必要とする他者に対し援助を行うプロセスに必要な基本的な知識・方法・態度について体験を通し理解を深め、さらに援助の本質について探究する。

到達目標：

1. 人間が人間を援助する必然性やその契機を検討する。
2. 人間が他者を援助するときの人間関係のあり方を体験的に検討する。
3. 他者理解の方法を体験的に理解する。
4. 他者理解を前提とする援助（看護）の過程を構造的に理解する。
5. 専門職として他者を援助するときの行為・ふるまい・態度の実際を体験的に理解する。
6. 自己の人間関係のあり方を省察する。

大項目	中項目	小項目
I. 人間の本質と援助の連関	1. 人間はなぜ他者を援助するのか	1) 人間存在の脆弱性、傷つきやすさ 2) 共感性 3) 贈与性
	2. 専門職としての援助はどう違うか	1) 社会的役割としての援助 2) 報酬
II. 対人援助関係の特質	1. ケアとは	1) ケアの語源 2) ケアの内容(ノディングスによる)
	2. 自己に対する他者とは	1) 他者の異質性・不可侵性・尊厳 2) 「我-それ」 / 「我-汝」関係 3) 非対称性
III. 他者理解の方法	1. 他者はどうしたら理解できるか	1) 一体化と対象化 / 共感と観察 2) 表現性 3) コミュニケーションの構造 4) 観察・記録とは
IV. 援助（看護）過程の構造	1. 看護の過程的構造	1) 問題解決過程 2) 人間関係成立発展過程 3) 看護における人間対人間の関係
V. 援助（看護）者としてのコミュニケーション・行為・ふるまい・態度・雰囲気	1. 援助（看護）になりうるための行為・ふるまい	1) 表現する / 表現を受け取る 2) 身体に触れる 3) 手先に心をこめる
	2. コミュニケーションのあり方	1) 基本的な技法 2) 対話と沈黙 3) そこに存在すること

成績評価の方法：出欠・グループワークへの参加状況・レポート

教科書：長谷川浩編集：系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 医学書院 2013

参考文献：そのつど紹介

## &lt;講義スケジュール&gt;

1	2013	4.15	月	16:10~17:35	守屋 治代	人間の本質と援助の連関	大教室
2		4.17	水	16:10~17:35	守屋 治代	対人援助関係の特質 1	大教室
3		4.24	水	13:00~14:25	守屋 治代	対人援助関係の特質 2	大教室
4		4.24	水	14:35~16:00	守屋 治代	他者理解の方法 1	大教室
5		5.13	月	16:10~17:35	守屋 治代	他者理解の方法 2	大教室
6		5.14	火	16:10~17:35	守屋 治代	他者理解の方法 3	大教室
7		5.22	水	13:00~14:25	守屋治代他 ※	援助者としての行為・ふるまい 1	大教室 オーキッドホール 看護実習室
8		5.22	水	14:35~16:00	守屋治代他 ※	援助者としての行為・ふるまい 2	
9		6.14	金	09:00~10:25	守屋 治代	コミュニケーションの実際 1	
10		6.14	金	10:35~12:00	守屋 治代	コミュニケーションの実際 2	
11		6.19	水	13:00~14:25	守屋 治代	看護過程の構造 1	大教室
12		6.19	水	14:35~16:00	守屋 治代	看護過程の構造 2	大教室
13		7.4	木	09:00~10:25	守屋 治代	看護過程の構造 3	大教室
14		7.11	木	09:00~10:25	守屋 治代	自己のコミュニケーションのあり 方の省察 1	大教室
15		7.11	木	10:35~12:00	守屋 治代	自己のコミュニケーションのあり 方の省察 2	大教室

※ 守屋治代、菊池昭江、見城道子、味木由佳、天野陽子、徳田玲子

[哲学]（選択科目）

科目責任者：井沼 一

目的

哲学（philosophy）はギリシャ語の philosophia に起源を持ち、「知を愛す」の意である。

本講義では、哲学する、とはどういうことなのか？から出発し、人間とは何か、人間らしい生き方、人間の尊厳などについて、正義論、自己決定権の考えに触れ、トリアージや尊厳死といった様々な問題を考察し、現代において問われるヒューマニズムに関わる問題について理解する。

「至誠と愛」の精神を意識しながら進めていきたい。

到達目標

1. 私たちの日常生活や医療という実践的な場を念頭に、哲学する、という知的営みに触れる。
2. 哲学者の考えを参考にして様々な問題を問い直すことができる。
3. 現代医療の抱える様々な問題を扱い、関心を持ち、自身で物事を考え掘り下げる力を養う。

大項目	中項目	小項目
I. 学問としての哲学 科学としての哲学	1. 哲学とは何か  2. 医療において人は自由？ 平等？  3. 現代において問われる ヒューマニズム	1) イントロダクション-講義の進め方、 内容、評価方法、単位取得、レポート について-哲学とは何か？ 2) 哲学するとは？ 哲学は看護学部生に必要？ 3) 正義論 4) トリアージ 5) 自己決定権 6) 尊厳死  7) レポートを書いてみよう 8) 総括と展望 -臨床哲学の可能性-

成績評価の方法：平常点および課題レポート提出

教科書：

教科書は使用せず、講義時にレジユメを配布します。

参考図書：

- 鷲田清一 『「聴く」ことのかー臨床哲学試論ー』 阪急コミュニケーションズ 1999.  
 辺見弘監修 『救急・災害現場のトリアージ』 荘道社 2001.  
 高橋隆雄 八幡英幸編 『自己決定論のゆくえー哲学・法学・医学の現場からー』 九州大学出版  
 会 2008.  
 Michael J. Sandel, "Justice: What's the Right Thing to Do?", New York : Farrar,  
 Straus and Giroux, 2009 (= 鬼澤忍訳『これからの「正義」の話をしよう』 早川書房 2010.)

受講上の注意等：

毎回、理解を助け、参考となる映像資料（ドキュメンタリー番組の一部等）を視聴する時間を設ける。  
 質問は、授業後の教室および E-mail にて受けつけます。

## &lt;講義スケジュール&gt;

1	2014.	1.27	月	13:00～14:25	井沼 一	イントロダクション	大教室
2		1.27	月	14:35～16:00	井沼 一	哲学とは？哲学は看護学部生に必要？	大教室
3		1.28	火	09:00～10:25	井沼 一	正義論	大教室
4		1.28	火	10:35～12:00	井沼 一	トリアージ	大教室
5		2.12	水	13:00～14:25	井沼 一	自己決定権	大教室
6		2.12	水	14:35～16:00	井沼 一	尊厳死	大教室
7		2.13	木	09:00～10:25	井沼 一	レポートを書いてみよう	大教室
8		2.13	木	10:35～12:00	井沼 一	総括と展望－臨床哲学の可能性－	大教室

生活している人間の環境

## [生活科学論]（選択科目）

科目責任者：松本佳子

## 目的

現代の生活問題を、生活者とそれを取りまく環境とを関連づけながら理解することによって、生活そのものを全体的に見つめなおし、よりよい方向性を見つけだそうとする力を身につける。

## 到達目標

- 1、現在の生活様式を歴史の中に位置づけて説明できる。
- 2、衣・食・住生活を営むうえでの現代的問題について説明できる。
- 3、家族の変化と家庭生活の諸問題について説明できる。
- 4、人をとりまく環境に関する問題点を認識し、それに対する新たな取り組みを列挙できる。

大項目	中項目	小項目
I. 生活科学とは	1. 生活科学の概念	1) 生活科学の概念と歴史
II. 生活科学各論	2. 生活科学と暮らし	1) 生活様式の変化 2) 衣食住と暮らし 3) 生活と文化 4) 家族と暮らし 5) 生活と福祉 6) 人と環境
III. 生活科学の展開	3. 生活科学の現代的課題と展開	1) 生活を支える新たな活動

## 成績評価の方法：

出席状況と講義後に課すレポートの点を合わせて評価する。

## 教科書：

特になし、随時プリントを配布

## 参考文献：

山本直成・浦上智子・中根芳一 著	生活科学	理工学社	2012
川添登・一番ヶ瀬康子 編著	講座生活学①生活学原論	光生館	1993
矢野潤・竹田一彦・管野善則 著	生活科学入門	三共出版	2011

## &lt;講義スケジュール&gt;

1	2013.	4.26	金	14:35～16:00	松本佳子	生活科学の概念と歴史	大教室
2		4.26	金	16:10～17:35	松本佳子	生活様式の変化	大教室
3		5.10	金	14:35～16:00	松本佳子	衣食住と暮らし	大教室
4		5.10	金	16:10～17:35	松本佳子	生活と文化	大教室
5		6.7	金	14:35～16:00	松本佳子	家族と暮らし	大教室
6		6.7	金	16:10～17:35	松本佳子	生活と福祉	大教室
7		6.21	金	14:35～16:00	松本佳子	人と環境	大教室
8		6.21	金	16:10～17:35	松本佳子	生活を支える新たな活動	大教室

〔史学〕（選択科目）

科目責任者：中込律子

目的

現代とは異なる過去の社会のあり方を学ぶことで視野を広げ、社会についての思考力を高める。イメージや感覚ではなく、事実により過去と現代を考える。

到達目標

1. 平安時代を例に歴史に対する誤った通念を改める。
  - ①現実の平安時代の社会を知る。一般に平安時代というと、優雅ではあるが怠惰な貴族の時代と考えられているが、現実の平安時代は、貴族・武士はもちろん僧侶や農民、商人など多様な人々の動きが活発化し、社会が大きく変化したダイナミックな時代である。
  - ②歴史は後世の人間、特にその時々の支配者により都合良いようにねじ曲げられることが多い。なぜそのようなことが起るのかを理解し、ねじ曲げられた像を安易に信じないような思考を身につける。
2. 平安時代の人々の生活、特に衛生環境などの環境を知り、当時の人々の考え方を知る。
  - ①平安時代の人々の生活は現在とは比較にならない程厳しい。これは庶民も貴族も変わらない。当時の衛生状態・栄養状態などを通して当時人々の生活を知る。
  - ②厳しい現実のなかで、平安時代の人々は現代人とは異なる生や死に対する観念をもっていた。具体的な例から理解する。
3. 疾病によっておこる差別について、歴史の側面からアプローチし、差別の防止について考える。  
 平安～鎌倉時代のハンセン病患者への差別の実態を知り、近代・現代（明治時代～現在）の差別とどこが共通し、どこが異なるかを考えることで、現代でもみられる疾病への差別に対する医療従事者の責任を考える。

大項目	中項目	小項目
I. 歴史を学ぶこと —平安・鎌倉時代を例に	1 平安・鎌倉時代のイメージ	1) 伝統的な平安貴族・鎌倉武士のイメージ 2) イメージの成立の背景
	2. 歴史を“知る”こと	1) 歴史の歪曲について
II. 平安時代の社会・生活と観念	1. 人々の生活	1) 居住 2) 食料事情 3) 都市京都の衛生問題
	2. 人の死と死生観	1) 葬り方と死生観
	3. 平安・鎌倉時代の疾病と差別	1) 病人への社会の対応 2) 平安・鎌倉時代のハンセン病患者の存在形態と差別 3) 近現代のハンセン病政策と差別

成績評価の方法

筆記試験による。授業で理解したことを文章化する論述形式。高校の歴史のように用語を暗記する必要はない。試験はこの科目の最後の時限に行う。

教科書

なし。授業でプリントを配布する。

参考図書

木村茂光編 平安京 くらしと風景 東京堂出版 1994

## ＜講義スケジュール＞

1	2013.	9.2	月	13:00～14:25	中込律子	I -1. 平安・鎌倉時代のイメージ	大教室
2		9.2	月	14:35～16:00	中込律子	I -2. 歴史を“知る”こと	大教室
3		9.9	月	13:00～14:25	中込律子	II -1. -1) 居住, -2) 食料事情	大教室
4		9.9	月	14:35～16:00	中込律子	II -1. -3) 都市の衛生問題	大教室
5		9.30	月	13:00～14:25	中込律子	II -2. -1) 葬り方と死生観	大教室
6		9.30	月	14:35～16:00	中込律子	II -2. -1) 病人に対する社会の対応	大教室
7		10.7	月	13:00～14:25	中込律子	II -2. -2) 平安・鎌倉時代のハンセン病患者の存在形態と差別 II -2. -2) 平安・鎌倉時代のハンセン病患者の存在形態と差別（続）	大教室
8		10.7	月	14:35～16:00	中込律子	II -2. -3) 近現代のハンセン病政策と差別 試験	中教室・視聴覚室

## 健康障害と生活の調整

## [病態学・概論]

科目責任者：荒井 純子

科目担当者：荒井 純子、尾崎 恭子

## 目的

病態学・概論では看護実習や卒後の臨床看護を行う上で必要な主要症候や診断に至るまでの流れ、治療法の概要を学び、2 学年より始まる臨床医学系ごとの病態学・各論に向けての医学的知識と考え方を習得する。

## 到達目標

1. 内科学・外科学の基本となる様々な症状とその病態について理解することができる。
2. 診断に至るまでの基本的な流れについて説明出来る。
3. 解剖学、生理学、生化学の基礎をふまえた上で健康と病気の違い、病気の成り立ちについて説明出来る。
4. 症状とその病態を理解し、症状に対する看護の重要性について理解出来る。
5. 臨床検査の種類や方法・概要について述べる事が出来る。
6. 治療法の概要・種類について述べる事が出来る。
7. 医学的背景を包括した統合的な考えをもとに、学生自身が考えながら看護を行う姿勢が養われる。

大項目	中項目	小項目
1. 病態学総論	1. 内科学・外科学総論	症候学概論、 診察方法概論、 バイタルサイン
2. 症候学	1. 徴候と症状 (sign and symptom)	1) 発熱、体温 2) 関節痛 3) 全身倦怠感、 4) 食欲不振 5) 悪心、嘔吐 6) 頭痛、肩こり 7) めまい 8) 痙攣 9) 睡眠障害、10) 不穏・ 不眠 11) 意識障害 12) 運動の障害 (麻痺、 失語) 13) 感覚の異常 14) 皮疹、皮下出血、 掻痒 15) 胸痛 16) 動悸、心悸亢進 17) 咳嗽、喀痰 18) 吐血と喀血 19) 呼吸の異常、 息切れ、呼吸困難、喘鳴 20) 嚥下障害 21) 腹痛、腹部膨満 22) 黄疸 23) 便秘 下痢、 下血 24) 浮腫、脱水 25) 乏尿、無尿、頻尿 26) チアノーゼ、27) 血圧、ショック 28) 創傷の治癒 29) 感染 30) 炎症 31) 腫瘍 32) 肥満 33) るいそう 34) リンパ節腫大
3. 診断学	1. 患者のみかた・診断学  2. 一般臨床検査  3. 画像診断  4. 組織診断 5. 特殊検査	1) 問診 2) バイタルサイン 3) 身体所見 1) 一般血液検査 (血算) 2) 血液生化学 3) 血清学的検査 4) 尿検査 5) その他の検査 (便、痰など) 1) レントゲン検査(単純 XP, 造影検査) 2) エコー 3) CT 4) MRI 5) PET 6) 核医学検査 1) 細胞診 2) 組織診断 1) 内視鏡検査 2) 臓器別機能検査 3) カテーテル検査

大項目	中項目	小項目
4. 治療学	1. 生活指導・食事・栄養	1) 生活指導 2) 食事療法 3) 経口栄養 4) 経腸栄養 5) 経静脈栄養
	2. 薬物療法	1) 経口治療薬 1. 解熱鎮痛薬 2. 抗菌薬 3. 抗癌薬 4. 免疫抑制薬 5. 副腎皮質ステロイド剤 6. 抗精神薬 7. 消化器系、循環器系薬、降圧薬など 2) 注射 1. 皮内注射 2. 皮下注射 3. 筋肉内注射 4. 経静脈注射・点滴注射
	3. 外科的治療	1) 全身麻酔下の手術 2) 局所麻酔下の手術 3) 内視鏡的手術 4) カテーテル治療
	4. 放射線治療	1) 外照射 2) 小線源治療、
	5. 輸血	1) 成分輸血、全血輸血 2) 輸血の副作用
	6. 血液浄化療法	1) 腹膜透析 2) 血液透析・血液濾過
	7. 臓器移植	1) 生体移植 2) 献体移植
	8. 緩和治療	

**評価方法**

出席状況、試験結果、課題レポートにより総合的に評価する。

**教科書**

北村 聖	臨床病態学 総論 (第2版)	ヌーヴェルヒロカワ	2013
竹村信彦他	系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学[7]脳・神経 (第13版)	医学書院	2012

**参考図書**

高久史磨	診察診断学 (第1版7刷)	医学書院	2007
------	---------------	------	------

## &lt;講義スケジュール&gt;

1	2013.	9.19	木	10:35~12:00	荒井純子	症候学概論、診察方法概論、バイタルサイン	大教室
2		9.19	木	13:00~14:25	荒井純子	発熱、関節痛、全身倦怠感、リンパ節腫大	大教室
3		9.26	木	14:35~16:00	荒井純子	頭痛、眩暈、痙攣、不穏・不眠、意識障害	大教室
4		9.26	木	16:10~17:35	荒井純子	運動の異常、感覚の異常、搔痒感、皮下出血	大教室
5		10.3	木	09:00~10:25	尾崎恭子	血圧、ショック、チアノーゼ	大教室
6		10.3	木	10:35~12:00	尾崎恭子	創傷の治癒、感染、炎症、腫瘍	大教室
7		10.10	木	13:00~14:25	荒井純子	胸痛、動悸、心悸亢進	大教室
8		10.10	木	14:35~16:00	荒井純子	咳嗽、喀痰、呼吸困難、ぜい鳴	大教室
9		10.17	木	09:00~10:25	荒井純子	悪心、嘔吐、食欲不振、腹痛、腹部膨満、黄疸	大教室
10		10.17	木	10:35~12:00	荒井純子	下痢、便秘、吐血、下血	大教室
11		10.31	木	09:00~10:25	荒井純子	浮腫、脱水 体液の組成、乏尿、無尿	大教室
12		10.31	木	10:35~12:00	荒井純子	肥満とやせ、代謝の異常(糖、脂質、蛋白質)	大教室
13		11.7	木	13:00~14:25	荒井純子	臨床検査、画像診断	大教室
14		11.7	木	14:35~16:00	荒井純子	治療学概論	大教室
15		11.14	木	10:35~12:00	荒井純子	試験	中教室、視聴覚室

[人間工学]

科目責任者：久宗周二

目的

日々の労働や日常生活を、道具・機械・環境と、人間の形態・行動特性等の相互関係を人間工学的な視点により論ずる。これにより労働や日常生活が、より安全に、より確実に、より快適になるような考え方、改善方法について習得する。

到達目標

1. 生活環境を考える上で必要なアーゴミクス(人間工学)の視点を学ぶ。
2. 実際の生活場面や機器の使われ方を見て、考えを深めていく。
3. 都市や日常の生活環境を考えていく上で、必要なことは何かを考える力をつける。

大項目	中項目	小項目
I. 人間工学概論	1. 人間工学の目的	1) 目的 2) 計測方法
II. 人間工学の基礎	1. 人間の形態	1) 作業域 2) 作業姿勢
	2. 人間の特性	1) 刺激域 2) 夜勤勤務の特性
	3. 機器デザインと人間工学	1) 操作性 2) 的確な情報伝達 3) 行動分析
III. 人間の注意力と人間工学	1. ヒューマンエラー	1) 不注意 2) 緊急時の人間行動 3) 意識の迂回
	2. 人間工学チェックリストによる改善	4) 医療過誤の事例と対策 5) パーソナルスペース 6) チェックリストの改善方法
IV. 人間工学の応用	1. 看護の人間工学	1) 問題点の抽出と改善方法 2) 問題点の抽出と改善の応用実習

成績評価の方法：

レポート、発表内容、出席などを総合して評価する。

教科書：

久宗周二

実践 参加型自主改善活動

創成社

参考文献：

野呂影勇 他

エルゴミクスデザイン

日科技連出版社

大島正光 他

人間工学

浅倉書店

長町三生

快適科学

海文堂出版

山岡俊樹 他

ユーザーインターフェイスの実践

海文堂出版

佐藤方彦

おはなし 生活科学

日本規格協会

村田厚生	人間工学概論	泉文堂
村田厚生	ヒューマンインターフェイスの基礎と応用	日本出版サービス
F. ケラーマン	人間工学の指針	〃
加藤象二郎 他	初学者のための生体機能の測り方	〃
鈴木一重 訳	人間工学 そのインパクト	〃
小松原明哲	エンジニアのための人間工学	〃
工業デザイン全書編集委員会	工業デザイン全書 人間工学 上・下	〃
生命工学工業技術研究所 編	人体寸法データ集	日本出版サービス
小原二郎 他	人体を図る	〃
小松原明哲	認知人間工学設計	技報堂出版
安全学研究会 訳	医療事故	ナカニシヤ出版
	患者誤認事故防止に向けて	ミクス
石井トク	医療事故- 看護と法の観点から	医学書院
〃	マンガで分かるナースが防ぐ医療事故	小学館
東京警察病院医療事故防止委員会	医療事故防止のためのガイドライン	篠原出版
渡邊順子	すき・すき・スキルナースの若葉のケアナビ99	学習研究社
産業技術総合研究所	人間計測ハンドブック	朝倉書店
久宗周二	海で働く人の改善活動ガイド	高文堂出版社
久宗周二	船員の健康づくり	高文堂出版社

## &lt;講義スケジュール&gt;

1	2013.	9.12	木	14:35~16:00	久宗周二	人間工学概論	大教室
2		9.12	木	16:10~17:35	久宗周二	人間工学の基礎1	大教室
3		9.13	金	9:00~10:25	久宗周二	人間工学の基礎2	大教室
4		9.13	金	10:35~12:00	久宗周二	人間工学の基礎3	大教室
5		9.19	木	14:35~16:00	久宗周二	人間工学の応用1	大教室
6		9.19	木	16:10~17:35	久宗周二	人間工学の応用2	大教室
7		9.20	金	9:00~10:25	久宗周二	ヒューマンエラーの防止1	大教室
8		9.20	金	10:35~12:00	久宗周二	ヒューマンエラーの防止2	大教室

## 働きかけの基本 看護活動

## [看護学・概論]

科目責任者：守屋治代

科目担当者：守屋治代、天野陽子

目的：

「看護学」に関する基盤となる概念・知識を原理的に学習する。特に、看護学の構成要素である「人間」「環境」「健康」「看護」についての概念、概念間の関連性とその変化を理解する。さらに、看護を専門的に実践するための看護の目的論・対象論・方法論の基本的枠組みを理解する。

到達目標：

1. 看護の成立発展過程を人類の歴史的発展過程や人間の生のプロセスから検討する。
2. 人間の生命／生活／人生のあり方と健康・看護の連関を検討する。
3. 人間にとって看護とは何か、その本質・目的を言語化する。
4. 看護を専門的に実践するための方法論（看護過程・看護技術）を知る。
5. 人間社会全体（様々な価値観・システム・他職種）のなかの看護の位置づけ・使命を知る。
6. 自分自身にとって看護を志向することの意義・意味を自覚する。

大項目	中項目	小項目
I. 看護の誕生と成立・発展	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護はどのように成立発展してきたか</li> <li>2. 看護はどのように学ぶか</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 「看護 nursing」の語源から</li> <li>2) 人類の歴史的発展過程から</li> <li>3) 人間の生のあり方のなかから</li> <li>1) 「知る」とはどういうことか</li> <li>2) 抽象化と具体化</li> <li>3) 実践とはどういうことか</li> <li>4) 看護における「技・技術」の位置づけ (→看護技術とは何かは、基礎看護学・各論 I へ)</li> </ol>
II. 人間の生命／生活／人生	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 多次元的存在としての人間</li> <li>2. 人の一生とは</li> <li>3. 一日の暮らし方とは</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 生物としての人間／動物としての人間／生活する人間／実存的に生きる人間 はどう違うか</li> <li>2) 生命（いのち）・生命力をどう理解するか</li> <li>3) 個体／家族／社会のなかで生きる人間</li> <li>4) 苦痛や困難と直面する人間</li> <li>5) 成長発達する人間</li> <li>6) 一日 24 時間の行動</li> </ol>
III. 環境と人間	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間にとって環境とは何か</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 環境の多層性</li> <li>2) 外部環境・内部環境</li> <li>3) 人間と環境の相互作用 (→さらに焦点化された内容は基礎看護学・各論 I へ)</li> </ol>
IV. 人間の健康／病気／回復・治癒	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康はどのように捉えられるか</li> <li>2. 病気とはどういう状態か</li> <li>3. 治癒とはどういうことか</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 連続体としての健康</li> <li>2) 様々な健康の定義</li> <li>3) 健康危機状態</li> <li>4) 治癒・自然治癒力と社会力</li> <li>5) 病むとはどういう体験か</li> </ol>

大項目	中項目	小項目
V. 看護とは何か	1. 看護の目的とは何か 2. 看護の機能とは何か 3. 看護とケア	ナイチンゲール看護論／ヘンダーソン看護論／ トラベルビー看護論による 1) 他者理解はどのように可能になるか
VI. 看護の方法	1. 他者をどう理解するか 2. 看護の必要性をどう見出すか 3. 看護観をどう表現するか 4. チームでどう実践するか	2) 過程としての看護：問題解決過程と人間関係成立発展過程 3) 看護観の表現としての看護技術 4) 看護の継続性とチームナーシングの理念
VII. 社会組織・地域のなかの看護	1. 社会のなかで看護はどのような役割を担うか 2. 一人の人が地域社会のなかでどのように支えられていく必要があるか	1) 社会を構成する要因、社会情勢を動かしている動因（主に政治、経済） 2) 保健医療福祉システム（地域包括ケアシステム）のなかの看護の位置づけ、継続性 3) 健康障害の種類・段階に応じた看護の場 4) 地域医療システムと看護
VIII. 看護の発展と使命	1. 社会の価値観と看護が守る価値観は何か 2. 看護専門性の分化・高度化によりどのような貢献ができるか 3. 看護はこれからの社会にどのような使命を果たせるか	1) 生命とは 2) 生命倫理／医療倫理／看護倫理の基本的考え方と動向 3) 専門性の分化と教育・研究 4) 専門性を発揮した実践の実際 5) 人間社会が抱える様々な課題と向き合い、問い続けること

成績評価の方法：出席・講義の参加度・レポート

教科書：

佐藤登美編集：新体系 看護学全書 基礎看護学① 看護学概論第3版 メヂカルフレンド社 2013

日本看護協会監修：新版 看護者の基本的責務 日本看護協会出版会 2012

F. ナイチンゲール（湯楨ます他4名訳）：看護覚え書 改訳第7版 現代社 2012

V. ヘンダーソン（湯楨ます他1名訳）：看護の基本となるもの 新装版 日本看護協会出版会 2009

J. トラベルビー（長谷川浩他1名訳）：トラベルビー 人間対人間の看護 医学書院 2008

寺本松野：新装版 看護のなかの死 日本看護協会出版会 2001

<講義スケジュール>

1	2013.	4.18	木	10:35~12:00	守屋 治代	看護の誕生と成立発展	大教室
2		4.22	月	13:00~14:25	守屋 治代	人間の生命／生活／人生 1	大教室
3		4.22	月	14:35~16:00	守屋 治代	人間の生命／生活／人生 2	大教室
4		5.07	火	09:00~10:25	守屋 治代	環境と人間	大教室
5		5.20	月	14:35~16:00	守屋 治代	人間の健康／病気／回復・治癒 1	大教室
6		5.20	月	16:10~17:35	守屋 治代	人間の健康／病気／回復・治癒 1	大教室
7		5.27	月	14:35~16:00	守屋 治代	看護とは何か 1	大教室
8		6.03	月	09:00~10:25	守屋 治代	看護とは何か 2	大教室
9		6.13	木	13:00~14:25	守屋 治代	看護の方法 1	大教室
10		6.13	木	14:35~16:00	守屋 治代	看護の方法 2	大教室
11		7.08	月	13:00~14:25	守屋 治代	社会組織・地域のなかの看護 1	大教室
12		7.08	月	14:35~16:00	守屋 治代	社会組織・地域のなかの看護 2	大教室
13		9.11	水	14:35~16:00	守屋 治代	看護の発展と使命 1	大教室
14		9.11	水	16:10~17:35	守屋 治代 特別講師	看護の発展と使命 2	大教室
15		9.19	木	09:00~10:25	守屋 治代 天野 陽子	看護の発展と使命 3	大教室

[基礎看護学・各論 I (生活援助論)]

科目責任者：守屋治代

科目担当者：守屋治代、菊池昭江、見城道子、  
味木由佳、天野陽子、徳田玲子

目的

専門技術としての看護技術の特徴を理解した上で、共通基本技術および対象の日常生活を健康的に整えるための看護の理論と方法を学び、看護技術の基本を習得する。

到達目標

1. 専門技術としての看護技術の基本的な考え方を理解できる。
2. 看護における安全・安楽の重要性について理解できる。
3. 感染の基本概念について理解し、基本的看護方法を説明できる。
4. 看護実践におけるバイタルサインのもつ意味を理解し、バイタルサイン測定の技術を習得する。
5. 健康にとって日常生活（環境、活動・休息、衣、清潔）のもつ意味を理解し、基本的看護方法を説明できる。

大項目	中項目	小項目
I. 看護場面における共通基本技術	1. 看護技術とは	1) 看護技術とは
	2. 安全を守る技術	1) 看護における安全の意義 1) 安全を守るための看護の視点
	3. 安楽にする技術	1) 看護における安楽の意義 2) 安楽にするための看護の視点
	4. 感染予防の技術 I	1) 感染予防のもつ意味 2) 感染予防の方法 1 3) 基本的看護技術の実際 (1) スタンダードプリコーション (2) ガウンテクニック
	5. バイタルサイン測定の技術	1) バイタルサインのもつ意味 2) 基本的看護技術の実際 (1) 呼吸、脈拍、体温、血圧の観察と測定
II. 日常生活を健康的に整えるための看護方法	1. 環境を整える技術	1) 健康にとって環境のもつ意味 2) 環境を整えるための看護の視点 3) 基本的看護技術の実際 (1) ベッドメイキング (2) 就床患者のシーツ交換
	2. 活動と休息を整える技術	1) 健康にとって活動と休息のもつ意味 2) 活動と休息を整えるための看護の視点 3) 基本的看護技術の実際 (1) 体位変換 (2) 移動
	3. 衣を整える技術	1) 健康にとって衣のもつ意味 2) 衣を整えるための看護の視点 3) 基本的看護技術の実際 (1) 寝衣交換
	4. 清潔を保持する技術 I	1) 健康にとって清潔のもつ意味 2) 清潔を保持するための看護の視点 3) 基本的看護技術の実際 (1) 足浴 (2) 全身清拭

評価方法：筆記試験、自己評価表などの提出物、出席状況により行う。

教科書：

志自岐康子他編集	ナーシング・グラフィカ® 基礎看護学-基礎看護技術	メディカ出版	2011
山口美穂子監修	看護技術講義演習ノート上巻 日常生活援助技術篇	医学芸術社	2006
山口美穂子監修	看護技術講義演習ノート下巻 診療に伴う看護技術篇	医学芸術社	2007

<講義スケジュール>

1	2013	4.25	木	13:00~14:25	守屋治代 <sup>他*</sup>	看護技術とは1	大教室・看護実習室
2		4.25	木	14:35~16:00	守屋治代 <sup>他*</sup>	看護技術とは2	大教室・看護実習室
3		5.8	水	16:10~17:35	菊池昭江	安全を守る技術1	大教室
4		5.10	金	13:00~14:25	見城道子	安楽にする技術1	オーキッドホール
5		5.13	月	13:00~14:25	味木由佳	感染予防Ⅰ1	大教室
6		5.13	月	14:35~16:00	味木由佳	感染予防Ⅰ2	大教室
7		5.16	木	10:35~12:00	味木由佳 <sup>他*</sup>	感染予防Ⅰ3A	看護実習室
7		5.16	木	16:10~17:35	味木由佳 <sup>他*</sup>	感染予防Ⅰ3B	看護実習室
8		5.20	月	13:00~14:25	味木由佳	感染予防Ⅰ4	大教室
9		5.21	火	09:00~10:25	味木由佳 <sup>他*</sup>	感染予防Ⅰ5A	看護実習室
9		5.21	火	10:35~12:00	味木由佳 <sup>他*</sup>	感染予防Ⅰ5B	看護実習室
10		5.27	月	13:00~14:25	菊池昭江	環境を整える技術1	大教室
11		5.30	木	13:00~14:25	菊池昭江 <sup>他*</sup>	環境を整える技術2A/B	看護実習室
12		5.30	木	14:35~16:00	菊池昭江 <sup>他*</sup>	環境を整える技術3A/B	看護実習室
13		6.3	月	14:35~16:00	味木由佳	バイタルサイン1	大教室
14		6.3	月	16:10~17:35	味木由佳	バイタルサイン2	大教室
15		6.6	木	09:00~10:25	味木由佳 <sup>他*</sup>	バイタルサイン3A	看護実習室
16		6.6	木	10:35~12:00	味木由佳 <sup>他*</sup>	バイタルサイン4A	看護実習室
15		6.10	月	13:00~14:25	味木由佳 <sup>他*</sup>	バイタルサイン3B	看護実習室
16		6.10	月	14:35~16:00	味木由佳 <sup>他*</sup>	バイタルサイン4B	看護実習室
17		6.13	木	09:00~10:25	見城道子	活動と休息を整える技術1	大教室
18		6.13	木	10:35~12:00	見城道子	活動と休息を整える技術2	大教室
19		6.17	月	13:00~14:25	見城道子 <sup>他*</sup>	活動と休息を整える技術3A	看護実習室
20		6.17	月	14:35~16:00	見城道子 <sup>他*</sup>	活動と休息を整える技術4A	看護実習室
19		6.20	木	09:00~10:25	見城道子 <sup>他*</sup>	活動と休息を整える技術3B	看護実習室
20		6.20	木	10:35~12:00	見城道子 <sup>他*</sup>	活動と休息を整える技術4B	看護実習室
21		7.3	水	16:10~17:35	菊池昭江	環境を整える技術4	大教室
22		7.4	木	16:10~17:35	菊池昭江 <sup>他*</sup>	環境を整える技術5A/B	看護実習室
23		9.5	木	09:00~10:25	味木由佳	衣を整える技術1	大教室
24		9.9	月	10:35~12:00	味木由佳 <sup>他*</sup>	衣を整える技術2A/B	看護実習室
25		9.11	水	13:00~14:25	見城道子	清潔を保持する技術Ⅰ1	大教室
26		9.12	木	09:00~10:25	見城道子 <sup>他*</sup>	清潔を保持する技術Ⅰ2A	看護実習室
26		9.13	金	16:10~17:35	見城道子 <sup>他*</sup>	清潔を保持する技術Ⅰ2B	看護実習室
27		9.17	火	09:00~10:25	見城道子	清潔を保持する技術Ⅰ3	大教室
28		9.26	木	09:00~10:25	見城道子 <sup>他*</sup>	清潔を保持する技術Ⅰ4A	看護実習室
29		9.26	木	10:35~12:00	見城道子 <sup>他*</sup>	清潔を保持する技術Ⅰ5A	看護実習室
28		9.27	金	09:00~10:25	見城道子 <sup>他*</sup>	清潔を保持する技術Ⅰ4B	看護実習室
29		9.27	金	10:35~12:00	見城道子 <sup>他*</sup>	清潔を保持する技術Ⅰ5B	看護実習室
30		10.4	金	09:00~10:25	守屋治代 <sup>他*</sup>	筆記試験	中教室・視聴覚室

\*守屋治代、菊池昭江、見城道子、味木由佳、天野陽子、徳田玲子

[基礎看護学・各論Ⅱ] (診療に伴う援助論)

科目責任者：守屋治代

科目担当者：守屋治代、菊池昭江、見城道子、加藤京里、  
味木由佳、天野陽子、徳田玲子

目的

検査、治療を受ける状況を看護の立場から理解し、回復を助け、治療効果が得られるような検査、治療に伴う看護の方法と看護技術の基本を学ぶ。

到達目標

1. 感染予防のもつ意味を理解し、基本的看護方法を説明できる。
2. 健康にとって日常生活（清潔・食・排泄）のもつ意味を理解し、基本的看護方法を説明できる。
3. 健康にとって呼吸・循環・体温のもつ意味を理解し、基本的看護方法を説明できる。
4. 診療における看護の役割について理解し、基本的看護方法を説明できる。
5. 食・排泄の機能障害について理解し、基本的看護方法を説明できる。

大項目	中項目	小項目
I. 看護場面における 共通基本技術	1. 感染予防の技術Ⅱ	1)感染予防の方法 2 2)基本的看護技術の実際 (1) 無菌操作
II. 日常生活を健康的に 整えるための看護方 法	1. 清潔を保持する技術Ⅱ	1)健康にとって清潔の持つ意味 2 2)清潔を保持するための看護の視点 2 3) 基本的看護技術の実際 (1)洗髪 (2)口腔ケア
	2. 食を整える技術Ⅰ	1)健康にとって食のもつ意味 2)食を整えるための看護の視点 3)基本的看護技術の実際 (1) 食事介助
	3. 排泄を整える技術Ⅰ	1)健康にとって排泄のもつ意味 2)排泄を整えるための看護の視点 3)基本的看護技術の実際 (1) 便尿器のあて方
III. 診療に伴う看護方法	1. 呼吸・循環・体温を整える 技術	1)健康にとって呼吸・循環・体温がもつ意味 2)呼吸・循環・体温を整えるための看護の視点 3)基本的看護技術の実際 (1) 罨法
	2. 検査・治療時の技術Ⅰ	1)診療過程と看護 2)検査に伴う基本的看護 3)検査における基本的看護技術の実際 (1)採血
	3. 検査・治療時の技術Ⅱ	1)治療に伴う基本的看護 2)治療における基本的看護技術の実際 (1)坐薬挿入 (2)注射法
	4. 食を整える技術Ⅱ	1)経口摂取が困難な場合の看護
	5. 排泄を整える技術Ⅱ	1)自然排泄が困難な場合の看護 2)基本的看護技術の実際 (1)浣腸

[基礎看護学・各論Ⅱ(診療に伴う援助論)]

評価方法

筆記試験、自己評価表などの提出物、出席状況により行う

教科書

志自岐康子他編集	ナーシンググラフィカ®基礎看護学-基礎看護技術	メディカ出版	2011
山口美穂子監修	看護技術講義演習ノート上巻 日常生活援助技術篇	医学芸術社	2006
山口美穂子監修	看護技術講義演習ノート下巻 診療に伴う看護技術篇	医学芸術社	2007

<講義スケジュール>

1	2013.	10. 4	金	10:35~12:00	見城道子	清潔を保持する技術Ⅱ 3	大教室
2		10. 7	月	09:00~10:25	見城道子 <sup>他*</sup>	清潔を保持する技術Ⅱ 4A	看護実習室
3		10. 7	月	10:35~12:00	見城道子 <sup>他*</sup>	清潔を保持する技術Ⅱ 5A	看護実習室
2		10.10	木	09:00~10:25	見城道子 <sup>他*</sup>	清潔を保持する技術Ⅱ 4B	看護実習室
3		10.10	木	10:35~12:00	見城道子 <sup>他*</sup>	清潔を保持する技術Ⅱ 5B	看護実習室
4		10.18	金	09:00~10:25	菊池昭江	食を整える技術Ⅰ 1	大教室
5		10.18	金	10:35~12:00	菊池昭江	食を整える技術Ⅰ 2	大教室
6		10.23	水	16:10~17:35	菊池昭江 <sup>他*</sup>	食を整える技術Ⅰ 3A/B	看護実習室
7		10.24	木	09:00~10:25	見城道子	排泄を整える技術Ⅰ 1	大教室
8		10.24	木	10:35~12:00	見城道子	排泄を整える技術Ⅰ 2	大教室
9		10.30	水	16:10~17:35	見城道子 <sup>他*</sup>	排泄を整える技術Ⅰ 3A	看護実習室
9		10.31	木	16:10~17:35	見城道子 <sup>他*</sup>	排泄を整える技術Ⅰ 3B	看護実習室
10		11. 6	水	09:00~10:25	味木由佳	感染予防Ⅱ 1	大教室
11		11. 8	金	09:00~10:25	味木由佳 <sup>他*</sup>	感染予防Ⅱ 2A	看護実習室
11		11. 8	金	10:35~12:00	味木由佳 <sup>他*</sup>	感染予防Ⅱ 2B	看護実習室
12		11.11	月	13:00~14:25	味木由佳	呼吸・循環・体温 1	大教室
13		11.11	月	14:35~16:00	味木由佳	呼吸・循環・体温 2	大教室
14		11.12	火	09:00~10:25	味木由佳 <sup>他*</sup>	呼吸・循環・体温 3A	看護実習室
14		11.12	火	10:35~12:00	味木由佳 <sup>他*</sup>	呼吸・循環・体温 3B	看護実習室
15		12. 6	金	09:00~10:25	菊池昭江	検査・治療Ⅰ 1	大教室
16		12. 6	金	10:35~12:00	菊池昭江	検査・治療Ⅰ 2	大教室
17		12.11	水	09:00~10:25	菊池昭江 <sup>他*</sup>	検査・治療Ⅰ 3A	看護実習室
18		12.11	水	10:35~12:00	菊池昭江 <sup>他*</sup>	検査・治療Ⅰ 4A	看護実習室
17		12.13	金	09:00~10:25	菊池昭江 <sup>他*</sup>	検査・治療Ⅰ 3B	看護実習室
18		12.13	金	10:35~12:00	菊池昭江 <sup>他*</sup>	検査・治療Ⅰ 4B	看護実習室
19	2014.	1. 6	月	13:00~14:25	菊池昭江	検査・治療Ⅱ 1	大教室
20		1. 6	月	14:35~16:00	菊池昭江	検査・治療Ⅱ 2	大教室
21		1. 8	水	09:00~10:25	菊池昭江 <sup>他*</sup>	検査・治療Ⅱ 3A	看護実習室
22		1. 8	水	10:35~12:00	菊池昭江 <sup>他*</sup>	検査・治療Ⅱ 4A	看護実習室
21		1. 9	木	09:00~10:25	菊池昭江 <sup>他*</sup>	検査・治療Ⅱ 3B	看護実習室
22		1. 9	木	10:35~12:00	菊池昭江 <sup>他*</sup>	検査・治療Ⅱ 4B	看護実習室
23		1.15	水	13:00~14:25	菊池昭江	検査・治療Ⅱ 5	大教室
24		1.15	水	14:35~16:00	菊池昭江	検査・治療Ⅱ 6	大教室
25		2.12	水	10:35~12:00	見城道子	排泄を整えるⅡ 1	大教室
26		2.13	木	13:00~14:25	見城道子 <sup>他*</sup>	排泄を整えるⅡ 2A	看護実習室
26		2.13	木	14:35~16:00	見城道子 <sup>他*</sup>	排泄を整えるⅡ 2B	看護実習室
27		2.17	月	13:00~14:25	見城道子	排泄を整えるⅡ 3	大教室
28		2.20	木	09:00~10:25	菊池昭江	食を整えるⅡ 1	大教室
29		2.20	木	10:35~12:00	菊池昭江	食を整えるⅡ 2	大教室
30		2.27	木	10:35~12:00	守屋治代 <sup>他*</sup>	筆記試験	中教室・視聴覚室

\* 守屋治代、菊池昭江、見城道子、加藤京里、味木由佳、天野陽子、徳田玲子

## [基礎看護学・各論Ⅲ（看護過程論）]

科目責任者：守屋治代

科目担当者：守屋治代、菊池昭江、見城道子  
味木由佳、天野陽子、徳田玲子

## 目的

1. 看護実践のための方法『看護過程展開の技術』を習得する。
2. 個別的な対象に、より適切な援助となるよう看護するための方法を理解し、さらに事例を学習素材として事例展開の実際を演習する。

## 到達目標

1. 看護過程の概念について、以下の側面から理解する。
  - ・人間関係成立発展および問題解決過程の両側面の統合として
  - ・一つの看護成立場面（狭義）および一定期間に渡る看護過程（広義）として
2. 看護過程展開の局面について事例を通して理解を深め、一連のプロセスを展開する。
3. グループメンバー間で発展的な意見交換ができる。

大項目	中項目	小項目
I. 看護過程の基本的な成り立ちと構造	1. 人間関係発展過程 2. 問題解決過程	1) トラベルビーの患者-看護者間の人間対人間の関係の位相 2) ペプロウの患者-看護者間の諸局面 1) 問題解決過程の局面 ①アセスメント ②問題設定 ③計画立案 ④実施 ⑤評価
II. 看護過程展開の道筋	1. 看護過程の基本的構造 2. 看護過程展開の道筋	1) 人間関係過程と問題解決過程の統合 2) 狭義・広義の看護過程 1) 看護過程展開の5つの局面 ①出会いと全体像への接近 ②人間関係の展開と看護の必要性の明確化 ③看護ケア計画の立案 ④人間関係の深まりと看護ケア実践 ⑤看護ケアの最終評価 2) 事例による看護過程展開の実際
III. 看護過程展開能力の自己評価	1. 自己の看護過程展開のふりかえり	1) 基礎看護学実習Ⅱにおける看護過程展開の自己評価 2) 自己の看護実践者としての課題・目標・将来像

## 教科書：

Joyce Travelbee（長谷川浩、藤枝知子訳）：人間対人間の看護 医学書院 2008

寺本松野：看護のなかの死、日本看護協会出版会 2001

## 成績評価の方法：

講義・グループワークへの参加状況、課題学習の内容により行う

## 参考文献：

講義内で提示する

<講義スケジュール>

1	2013.	9.30	月	09:00~10:25	守屋治代	看護過程の構造と道筋 1	大教室
2		9.30	月	10:35~12:00	守屋治代	看護過程の構造と道筋 2	大教室
3		10.2	水	09:00~10:25	守屋治代	事例による看護過程展開の実際 1	大教室
4		10.2	水	10:35~12:00	守屋治代	事例による看護過程展開の実際 2	大教室
5		10.9	水	09:00~10:25	守屋治代	事例による看護過程展開の実際 3	大教室他
6		10.9	水	10:35~12:00	守屋治代	事例による看護過程展開の実際 4	大教室他
7		10.16	水	09:00~10:25	守屋治代	事例による看護過程展開の実際 5	大教室他
8		10.16	水	10:35~12:00	守屋治代	事例による看護過程展開の実際 6	大教室他
9		10.23	水	09:00~10:25	守屋治代他*	事例による看護過程展開の実際 7	大教室他
10		10.23	水	10:35~12:00	守屋治代他*	事例による看護過程展開の実際 8	大教室他
11		10.28	月	13:00~14:25	守屋治代他*	事例による看護過程展開の実際 9	大教室他
12		10.28	月	14:35~16:00	守屋治代他*	事例による看護過程展開の実際 10	大教室他
13		11.11	月	09:00~10:25	守屋治代	事例による看護過程展開の実際 11	大教室他
14	2014.	2.19	水	09:00~10:25	守屋治代	看護過程展開能力の自己評価	大教室
15		2.19	水	10:35~12:00	守屋治代	看護過程展開能力の自己評価	大教室

\* 守屋治代、菊池昭江、見城道子、味木由佳、天野陽子、徳田玲子

## [基礎看護学実習 I]

科目責任者：守屋治代

科目担当者：守屋治代、菊池昭江、味木由佳

## 目的

基礎看護学で履修した看護の目的および対象について、実習を通して体験的にその理解を深める。

## 到達目標

1. 対象に適した環境について考えることができる。
2. 対象の基本的ニーズについて考えることができる。
3. 人間関係の成立・発展について考えることができる。

大項目	中項目	小項目
I. 対象の理解	1. 対象に適した環境の理解 2. 人間の基本的ニーズの理解 3. 人間関係の成立・発展の理解	1) 施設の概要 2) 人間の基本的ニーズ 3) 対象の行動と自分の関わり

実習方法：乳幼児及び老人施設で実習を行う。（基礎看護学実習 I 実習要項を参照のこと）

実習評価：実習記録物、出席状況、実習態度により行う。

## 参考図書：

V. ヘンダーソン	看護の基本となるもの	日本看護協会出版会
F. ナイチンゲール	看護覚え書き	現代社
E. ペプロウ	ペプロウ人間関係の看護論	医学書院
DVD「看護学生のための初めての实習ガイド」Vol.1 基本編【実習の心得】		医学映像教育センター
DVD「看護学生のための初めての实習ガイド」Vol.2 実践編【実習の実際】		医学映像教育センター
VTR「さくらんぼ坊や」シリーズ		共同映画 他
1. 幼児の全面発達を求めて	2. 模倣と自立	3. 言葉と自我
4. 4歳と仲間	5. 5歳と仲間	6. 自治と創造
DVD「目で見える老年看護学 高齢者の生理機能」		医学映像教育センター
I. 感覚・運動・神経系	II. 消化・腎・排泄	III. 循環・呼吸系
DVD「看護のための対話学習 高齢者との対話」		医学映像教育センター
DVD「乳幼児の発達と遊び」		医学映像教育センター
0歳児	1歳児・2歳児	3歳児・4歳児・5歳児

## &lt;実習スケジュール&gt;

2013.	4.25	木	10:35~12:00	オリエンテーション
	5.29	水	13:00~16:00	オリエンテーション
	6.24	月	9:00~17:00	A: 幼稚園・保育園 B: 老人施設
	6.25	火	9:00~17:00	A: 幼稚園・保育園 B: 老人施設
	6.27	木	9:00~17:00	A: 老人施設 B: 幼稚園・保育園
	6.28	金	9:00~17:00	A: 老人施設 B: 幼稚園・保育園
	7.1	月	13:00~17:35	学内実習

[基礎看護学実習Ⅱ]

科目責任者：守屋治代

科目担当者：守屋治代、菊池昭江、見城道子、加藤京里  
味木由佳、天野陽子、徳田玲子

目的

入院という特殊な生活過程にある対象に対して、より健康的な日常生活への意図的な援助を行い、看護過程展開の基本的能力を習得する。またその実践体験を通して、看護の目的、役割、機能について理解を深め、自己の看護観を確かなものとする。

到達目標

- 1) 日常生活の場としての病院・病棟の概要を説明できる。
- 2) 個別な患者のより健康的な日常生活へ向けた看護過程展開が理解できる。
- 3) 相手とのよりよい人間関係の成立・発展について考えることができる。
- 4) 医療チームメンバーのなかで、看護者の果たす役割・機能について考えることができる。
- 5) 保健医療チームの一員としての責任と誠意ある行動がとれる。

大項目	中項目	小項目
I. 看護が行われる場の理解	1. 日常生活の場としての病院・病棟の理解	1) 病院の地域の中での役割 2) 病院組織の中の看護部の役割 3) 病棟の設備・構造
II. 看護過程の展開	1. 個別な患者のより健康的な日常生活へ向けた看護過程展開の理解 2. 人間関係成立・発展過程の理解	1) その人との出会いと全体像への接近 2) 人間関係の展開と看護の必要性の明確化 3) その人への看護ケア計画の立案 4) 人間関係の深まりと看護ケアの実践 5) その人への人間的・専門的責任としての看護ケアの最終評価
III. 専門職業人としてのあり方の理解	1. チーム医療のなかで、看護に求められている役割・機能の理解	1) 医療チームメンバーのなかで、看護者の果たす役割・機能・責任 2) 自分の言動が周囲（入院患者、医療チームメンバー、学生など）に及ぼす影響 3) 自分の行動に関する報告・連絡・相談

実習方法

総合病院にて実習を行う（基礎看護学実習Ⅱ実習要項を参照のこと）

実習評価

実習内容および実習記録内容、出席状況、実習態度により行う。

全体

2013.	10.28	月	09:00～10:25	全体オリエンテーション	大教室ほか
	11.07	木	09:00～12:00	教員別オリエンテーション1	
	11.13	水	09:00～12:00	教員別オリエンテーション2	看護実習室ほか
	11.18	月	09:00～17:35	事前学習（技術演習）	看護実習室ほか
	11.21	木	09:00～12:00	病棟オリエンテーション	各病院

A :

2013.	11.25	月	09:00～17:00	病院実習	各病院
	11.26	火	09:00～17:00	病院実習	各病院
	11.27	水	09:00～12:00	学内実習	演習室ほか
	11.28	木	09:00～17:00	病院実習	各病院
	11.29	金	09:00～17:00	病院実習	各病院
	12.02	月	09:00～17:00	病院実習	各病院
	12.03	火	09:00～17:00	病院実習	各病院

B :

2014.	01.16	木	09:00～17:00	病院実習	各病院
	01.17	金	09:00～17:00	病院実習	各病院
	01.20	月	09:00～17:00	病院実習	各病院
	01.21	火	09:00～17:00	病院実習	各病院
	01.22	水	09:00～12:00	学内実習	演習室ほか
	01.23	木	09:00～17:00	病院実習	各病院
	01.24	金	09:00～17:00	病院実習	各病院

C :

2014.	01.30	木	09:00～17:00	病院実習	各病院
	01.31	金	09:00～17:00	病院実習	各病院
	02.03	月	09:00～17:00	病院実習	各病院
	02.04	火	09:00～17:00	病院実習	各病院
	02.05	水	09:00～12:00	学内実習	演習室ほか
	02.06	木	09:00～17:00	病院実習	各病院
	02.07	金	09:00～17:00	病院実習	各病院

A :

2013.	12.09	月	09:00～12:00	事後学習 1	演習室ほか
-------	-------	---	-------------	--------	-------

B :

2014.	01.27	月	09:00～12:00	事後学習 1	演習室ほか
-------	-------	---	-------------	--------	-------

C :

2014.	02.10	月	09:00～12:00	事後学習 1	演習室ほか
-------	-------	---	-------------	--------	-------

全体

2014.	02.18	火	09:00～12:00	事後学習 2	大教室ほか
-------	-------	---	-------------	--------	-------

人間性を育む

[フィットネスの理論と実技]

科目責任者：金子 慧

目的

現代人にとって運動は欠かせないものである。そこで運動を実践するにあたっての理論および方法を最新のスポーツ情勢に触れながら、運動能力を高めることを目的とする。

到達目標

1. 健康の定義について説明できる。
2. 身体活動の意義及び基礎理論について説明できる。
3. 運動とスポーツが身体に及ぼす影響について説明できる。
4. 各スポーツの運動効果の違いについて説明できる。
5. 各種目の基本技能及びルールについて説明できる。
6. 自分の健康の維持及び増進にスポーツが応用できる。

大項目	中項目	小項目
I. 健康・スポーツ科学(講義)	1. 健康とスポーツ 2. 身体活動の基礎	1) 健康とは 2) 体力とは 1) 体組成 2) 運動と脳 3) 生活習慣病との関わり
II. スポーツ① レクリエーションスポーツ (バレーボール・フライングディスク・ソフトボール)	1. バレーボール 2. フライングディスク 3. ソフトボール 4. ゲーム	1) オーバーハンドパス・アンダーハンドパス 2) スパイクフォーメーション 1) ディスクの持ち方、スローイングとキャッチング 2) コンビネーション 1) キャッチング・スローイング・バッティング 2) コンビネーション 1) グループコミュニケーション 2) ルールの確認 3) 大会様式の設定・確認・運営
III. スポーツ② 生涯スポーツ (硬式テニス)	1. 基本技能 2. ゲーム	1) ボール慣れ 2) フォアハンド・バックハンド 3) サービス 1) 戦略 2) ルール確認
IV. スポーツ③ 日常の中でできるスポーツ (エクササイズ・ウォーキング)	1. 理論 2. 実践	1) 有酸素運動の理論 2) 方法・注意点 3) 流行の時代背景 1) 実際にやってみよう 2) 日常生活での活用法
V. スポーツ④ 自分の身体を知る (スポーツテスト)	1. スポーツテストの意義 2. スポーツテストの実践	1) 自分の身体の現状を理解する 2) やり方の確認 1) 自分自身の現状を把握する 2) 今後における対策を考える

## フィットネスの理論と実技

### 評価方法：

- ・ 年間を通しての出席および授業態度を中心に評価する。また、レポートを2回求める。
- ・ 配点は出席50%、レポートその他50%とし、採点を行う。
- ・ 授業の性質上、欠席及び遅刻に関しては厳しく対処する。遅刻は3回で1回の欠席とする。
- ・ 基本的に全出席とする。また、授業回数の80%以上の出席が単位認定の最低条件となる。
- ・ その他の細かい内容については授業時に随時説明する。

### 教科書：

なし。必要であればプリント配布を行う。

### 参考図書：

小澤治夫, 西端泉 最新フィットネス基礎理論 日本フィットネス協会  
勝田茂 入門運動生理学 杏林書院

### <講義スケジュール>

1	2013.	4.17	水	9:00~10:25	金子 慧	健康・スポーツ科学 (講義) ①	大教室
2		4.17	水	10:35~12:00	金子 慧	健康・スポーツ科学 (講義) ②	大教室
3		4.24	水	9:00~10:25	金子 慧	健康・スポーツ科学 (講義) ③	大教室
4		4.24	水	10:35~12:00	金子 慧	健康・スポーツ科学 (講義) ④	大教室
5		5.8	水	9:00~10:25	金子 慧	自分の身体を知るA	オーキッドホール
		5.8	水	10:35~12:00	金子 慧	自分の身体を知るB	オーキッドホール
6		5.15	水	9:00~10:25	金子 慧	バレーボールA	オーキッドホール
		5.15	水	10:35~12:00	金子 慧	バレーボールB	オーキッドホール
7		5.22	水	9:00~10:25	金子 慧	バレーボールA	オーキッドホール
		5.22	水	10:35~12:00	金子 慧	バレーボールB	オーキッドホール
8		5.29	水	9:00~10:25	金子 慧	バレーボールA	オーキッドホール
		5.29	水	10:35~12:00	金子 慧	バレーボールB	オーキッドホール
9		6.5	水	9:00~10:25	金子 慧	バレーボールA	オーキッドホール
		6.5	水	10:35~12:00	金子 慧	バレーボールB	オーキッドホール
10		6.12	水	9:00~10:25	金子 慧	バレーボールA	オーキッドホール
		6.12	水	10:35~12:00	金子 慧	バレーボールB	オーキッドホール
11		6.19	水	9:00~10:25	金子 慧	ソフトボールA	野球場
		6.19	水	10:35~12:00	金子 慧	ソフトボールB	野球場
12		6.26	水	9:00~10:25	金子 慧	ソフトボールA	野球場
		6.26	水	10:35~12:00	金子 慧	ソフトボールB	野球場
13		7.3	水	9:00~10:25	金子 慧	ソフトボールA	野球場
		7.3	水	10:35~12:00	金子 慧	ソフトボールB	野球場
14		7.10	水	9:00~10:25	金子 慧	ソフトボールA	野球場
		7.10	水	10:35~12:00	金子 慧	ソフトボールB	野球場
15		9.4	水	9:00~10:25	金子 慧	テニスA	テニスコート
		9.4	水	10:35~12:00	金子 慧	テニスB	テニスコート
16		9.11	水	9:00~10:25	金子 慧	テニスA	テニスコート
		9.11	水	10:35~12:00	金子 慧	テニスB	テニスコート
17		9.18	水	9:00~10:25	金子 慧	テニスA	テニスコート
		9.18	水	10:35~12:00	金子 慧	テニスB	テニスコート
18		9.25	水	9:00~10:25	金子 慧	テニスA	テニスコート
		9.25	水	10:35~12:00	金子 慧	テニスB	テニスコート
19		10.2	水	13:00~14:25	金子 慧	テニスA	テニスコート
		10.2	水	14:35~16:00	金子 慧	テニスB	テニスコート
20		10.9	水	13:00~14:25	金子 慧	フライングディスク A	芝グラウンド
		10.9	水	14:35~16:00	金子 慧	フライングディスク B	芝グラウンド

<講義スケジュール>

21		10.16	水	13:00~14:25	金子 慧	フライングディスク A	芝グラウンド
		10.16	水	14:35~16:00	金子 慧	フライングディスク B	芝グラウンド
22		10.23	水	13:00~14:25	金子 慧	フライングディスク A	芝グラウンド
		10.23	水	14:35~16:00	金子 慧	フライングディスク B	芝グラウンド
23		10.30	水	13:00~14:25	金子 慧	エクササイズ A	オーキッドホール
		10.30	水	14:35~16:00	金子 慧	エクササイズ B	オーキッドホール
24		11.6	水	13:00~14:25	金子 慧	エクササイズ A	オーキッドホール
		11.6	水	14:35~16:00	金子 慧	エクササイズ B	オーキッドホール
25		11.13	水	13:00~14:25	金子 慧	エクササイズ A	オーキッドホール
		11.13	水	14:35~16:00	金子 慧	エクササイズ B	オーキッドホール
26		11.20	水	13:00~14:25	金子 慧	スポーツテスト A	オーキッドホール
		11.20	水	14:35~16:00	金子 慧	スポーツテスト B	オーキッドホール
27		11.27	水	13:00~14:25	金子 慧	スポーツテスト A	オーキッドホール
		11.27	水	14:35~16:00	金子 慧	スポーツテスト B	オーキッドホール
28		12.4	水	13:00~14:25	金子 慧	スポーツテスト A	オーキッドホール
		12.4	水	14:35~16:00	金子 慧	スポーツテスト B	オーキッドホール
29		12.11	水	13:00~14:25	金子 慧	ウォーキング A	オーキッドホール
		12.11	水	14:35~16:00	金子 慧	ウォーキング B	オーキッドホール
30	2014.	1.8	水	13:00~14:25	金子 慧	まとめ A	オーキッドホール
		1.8	水	14:35~16:00	金子 慧	まとめ B	オーキッドホール

[英語 I-1A : チャレンジ・クラス]

科目責任者：木村みどり

科目担当者：木村みどり

【目的】

英語 I-1Aは、英語能力を磨きたいという学習意欲の高い学生を対象にしている。Alverno College や Hawaii Pacific University よりの交換学生を迎えた時の交流や、それらの大学への短期研修の時に、積極的に英語でコミュニケーションが図れるようになるための英語力を養う。さらに、大学院への進学、海外留学、海外での就職なども念頭に入れ、英語4技能 (Speaking, Listening, Reading, Writing) の総合的能力養成を目指す。

【到達目標】

1. さまざまな場面における簡単な日常英会話ができるようになる。
2. 自分や日本のことを紹介する英語のスピーチができる。
3. 物語の情景、登場人物の心境、などを深く読み取れるようになる。
4. パワーポイントを利用した英語によるプレゼンテーション能力を養成する。
5. 基本的な会話、簡単な説明を英語で聞きとれるようになる。(TOEIC のリスニング自習)

大項目	中項目	小項目
I.スピーキング	1. 英会話の基本表現を身につける	1) 様々な話題に関する会話表現を練習する 自己紹介、趣味、仕事、経験、パーティ 2) 会話によく使用される文法の基礎を復習する
	2. 会話を楽しむ	1) 友人と実際に英語で練習する
	3. 会話に自信を持つ	1) 何度も繰り返し練習する 2) 決まった表現が反射的に出てくるまで練習する。
	4. スピーチ・プレゼンテーション	1) 自分や家族、故郷について話す 2) 大東での生活や日本について話す 3) アメリカ文化について発表する 4) パワーポイントの使い方に慣れる
II.リスニング	1. リスニング・ストラテジーの取得 2. 情報を聞き取る	1) 英語特有のリズム、発音のルールに慣れる 2) TOEIC にチャレンジすることによって、リスニングの向上をはかる
III.リーディング	1. ストーリーを読み込む	1) 物語の意味を把握する 2) 内容の背景、登場人物の心理状態を理解する
IV.ライティング	1. オーラル・プレゼンテーションのシナリオを書く	1) 物語の内容を自分の英文で書く 2) 調べた情報を英文で書く

成績評価の方法：

TOEIC 小テスト、会話実技テスト、プレゼンテーション、期末テストの総合評価とする。

教科書：

Marc Helgesen, Steven Brown, John Wilshier

English FIRSTHAND 1

Pearson Longman 2010

David E. Bramley, 河合忠仁, 桐村亮 著

TOEIC Listening 500

松柏社 2006

Anne of Green Gables

Oxford University Press

その他の資料は、適宜配布する

## &lt;講義スケジュール&gt;

1	2013.	4. 18	木	13:00~14:25	木村・宮原・森	オリエンテーション. 映画鑑賞	大教室
2		4. 18	木	14:35~16:00	木村・宮原・森	クラス分けテスト	情報実習室
3		5. 9	木	13:00~14:25	木村みどり	Unit 1 It's nice to meet you	A:大教室
4		5. 9	木	14:35~16:00	木村みどり	国際交流準備	A:情報実習室
5		5. 16	木	13:00~14:25	木村みどり	国際交流準備	A:情報実習室
6		5. 16	木	14:35~16:00	木村みどり	国際交流準備	A:情報実習室
7		5. 23	木	13:00~14:25	木村みどり	国際交流準備 (予行練習:合同)	A B C:大教室
8		5. 23	木	14:35~16:00	木村みどり	国際交流準備 (予行練習:合同)	A B C:図書館
9		5. 24	金	13:00~14:25	木村みどり	国際交流 (合同)	A B C:大教室
10		5. 24	金	14:35~16:00	木村みどり	国際交流 (合同)	A B C:図書館
11		6. 6	木	13:00~14:25	木村みどり	1. A surprise for the Cuthberts	A:大教室
12		6. 6	木	14:35~16:00	木村みどり	Unit 2 Who are they talking about? TOEIC Drill	A:情報実習室
13		6. 20	木	13:00~14:25	木村みどり	2. At Green Gables	A:大教室
14		6. 20	木	14:35~16:00	木村みどり	Unit 3 When do you start?	A:情報実習室
15		7. 4	木	13:00~14:25	木村みどり	会話テスト/映画鑑賞	A, B, C: Conference room
16		7. 4	木	14:35~16:00	木村みどり	会話テスト/映画鑑賞	A B C:大教室
17		9. 12	木	10:35~12:00	木村みどり	ハワイ研修帰国報告プレゼン 夏休み報告プレゼン準備 TOEIC Review	A B C:大教室 A:情報実習室
18		9. 12	木	13:00~14:25	木村みどり	Summer Vacation プレゼン	A:情報実習室
19		10. 3	木	13:00~14:25	木村みどり	TOEIC テスト①	A:情報実習室
20		10. 3	木	14:35~16:00	木村みどり	3. At Avonlea School	A:大教室
21		10. 17	木	13:00~14:25	木村みどり	4. More trouble for Anne	A:大教室
22		10. 17	木	14:35~16:00	木村みどり	Unit 4 Where does this go? TOEIC Drill	A:情報実習室A
23		10. 31	木	13:00~14:25	木村みどり	5. Queen's College	A:大教室
24		10. 31	木	14:35~16:00	木村みどり	Unit 5 How do I get there? TOEIC Drill	A:情報実習室
25		11. 14	木	13:00~14:25	木村みどり	会話テスト/映画鑑賞	A, B, C: Conference room
26		11. 14	木	14:35~16:00	木村みどり	会話テスト/映画鑑賞	A, B, C: Conference room
27		12. 12	木	13:00~14:25	木村みどり	Reading テスト	A:大教室
28		12. 12	木	14:35~16:00	木村みどり	ハワイ研修オリエンテーション プレゼンテーション準備	A, B, C: 情報実習室
29	2014.	1. 9	木	13:00~14:25	木村みどり	TOEIC test②	A:情報実習室
30		1. 9	木	14:35~16:00	木村みどり	プレゼンテーション	A:情報実習室

## [英語 I - 1 : B, C]

科目責任者：木村みどり

科目担当者：宮原 葉、森 真由子

## 【目的】

自主学習の習慣をつけ、将来必要とされる英語の基盤を身につける。使える英語を念頭に、読む、書く、聞く、話す、の4技能の向上を目指す。5月に本学を訪問する Hawaii Pacific University の学生との交流、3・4年生で行われるハワイ短期留学などを念頭に入れ、スピーキングとリスニング力向上を図る。“Anne of Green Gables”を読みながら、物語を楽しむ経験を積む。TOEIC のリスニングのテキストを自習しながら聴解力の基礎を養う。

## 【到達目標】

1. 簡単な日常英会話ができる。
2. 簡単な英語の説明を理解できる。
3. 英語で簡単な発表ができる。
4. 簡単な物語を辞書を引かずに理解できる。

大項目	中項目	小項目
I. スピーキング	1. 英会話の基本表現を身につける	1) 様々な話題に関する会話表現を練習する 自己紹介、趣味、仕事、経験、日常生活 2) 会話によく使用される文法の基礎を復習する
	2. 会話を楽しむ	1) 友人と実際に英語で練習する 2) 何度も繰り返し練習する
	3. スピーチ・プレゼンテーション	1) 自分や家族について話す 2) ロールプレイ 3) 大勢の前で発表する
II. リスニング	1. リスニング・ストラテジーの取得	1) 英語特有のリズム、発音のルールに慣れる 2) TOEIC にチャレンジすることによって、リスニングの向上をはかる
III. リーディング	1. ストーリーを読み込む	1) 物語の意味を把握する
IV. ライティング	1. オーラル・プレゼンテーションのシナリオを書く	1) 調べた情報を英文で書く

成績評価の方法：

TOEIC 小テスト、実技テスト、提出物、期末テストの総合とする。

教科書：

Marc Helgesen, Steven Brown, John Wilshier	English FIRSTHAND 1	Pearson Longman	2010
David E. Bramley, 河合忠仁, 桐村亮 著	TOEIC Listening 400	松柏社	2006
Lucy Maud Montgomery,	Anne of Green Gables	Oxford University Press	

その他の資料は、適宜配布する

## ＜講義スケジュール＞

1	2013.	4. 18	木	13:00～14:25	木村・宮原・森	オリエンテーション	大教室
2		4. 18	木	14:35～16:00		クラス分けテスト・映画鑑賞	大教室
3		5. 9	木	13:00～14:25	B 宮原 C 森	Unit 1 It's nice to meet you	B:視聴覚室 C:中教室
4		5. 9	木	14:35～16:00	B 宮原 C 森	国際交流準備	B:視聴覚室 C:中教室
5		5. 16	木	13:00～14:25	B 宮原 C 森	国際交流準備	B:視聴覚室 C:中教室
6		5. 16	木	14:35～16:00	B 宮原 C 森	国際交流準備	B:視聴覚室 C:中教室
7		5. 23	木	13:00～14:25	B 宮原 C 森	国際交流準備(予行演習:合同)	大教室
8		5. 23	木	14:35～16:00	B 宮原 C 森	国際交流準備(予行演習:合同)	図書館
9		5. 24	金	13:00～14:25	B 宮原 C 森	国際交流(合同)	大教室
10		5. 24	金	14:35～16:00	B 宮原 C 森	国際交流(合同)	図書館
11		6. 6	木	13:00～14:25	B 宮原 C 森	Unit 2 Who are they talking about? TOIEC Review	B:視聴覚室 C:中教室
12		6. 6	木	14:35～16:00	B 宮原 C 森	1. A surprise for Cuthbert	B:視聴覚室 C:中教室
13		6. 20	木	13:00～14:25	B 宮原 C 森	Unit 3 When do you start? TOIEC Review	B:視聴覚室 C:中教室
14		6. 20	木	14:35～16:00	B 宮原 C 森	2. At Green Gables	B:視聴覚室 C:中教室
15		7. 4	木	13:00～14:25	B 宮原 C 森	会話テスト/映画鑑賞	A, B, C: Conference room
16		7. 4	木	14:35～16:00	B 宮原 C 森	会話テスト/映画鑑賞	ABC:大教室
17		9. 12	木	10:35～12:00	B 宮原 C 森	ハワイ研修帰国報告プレゼンテーション Report on Summer Vacation	大教室 B:視聴覚室 C:中教室
18		9. 12	木	13:00～14:25	B 宮原 C 森	TOIEC Review	B:視聴覚室 C:中教室
19		10. 3	木	13:00～14:25	B 宮原 C 森	TOEIC テスト①	大教室
20		10. 3	木	14:35～16:00	B 宮原 C 森	映画鑑賞	大教室
21		10. 17	木	13:00～14:25	B 宮原 C 森	Unit4 Where does this go? TOIEC Review	B:視聴覚室 C:中教室
22		10. 17	木	14:35～16:00	B 宮原 C 森	3. At Avonlea School	B:視聴覚室 C:中教室
23		10. 31	木	13:00～14:25	B 宮原 C 森	Unit 5 How do I get there?	B:視聴覚室 C:中教室
24		10. 31	木	14:35～16:00	B 宮原 C 森	4. More trouble for Anne 発表会準備	B:視聴覚室 C:中教室
25		11. 14	木	13:00～14:25	B 宮原 C 森	会話テスト/発表会準備	A, B, C: Conference room
26		11. 14	木	14:35～16:00	B 宮原 C 森	会話テスト/発表会準備	A, B, C: Conference room
27		12. 12	木	13:00～14:25	B 宮原 C 森	Anne of Green Gables Test	B:視聴覚室 C:中教室
28		12. 12	木	14:35～16:00	B 宮原 C 森	TOIEC Review Final Presentation 準備 ハワイオリエンテーション	B:視聴覚室 C:中教室 A, B, C:情報実習室
29	2014.	1. 9	木	13:00～14:25	B 宮原 C 森	TOEIC Test②	大教室
30		1. 9	木	14:35～16:00	B 宮原 C 森	Final Presentation	B:視聴覚室 C:中教室

## [ドイツ語 I] (選択科目)

科目責任者：森 治

## 目的

これまでの英語学習に加え、ドイツ語を学ぶことにより、言語表現の多様な現実に触れる。  
ドイツ語を通じ、世界についての新たな見方、考え方を修得し、柔軟な発想や思考を涵養する。

## 到達目標

1. ドイツ語の正しい発音と聞き取りができる。
2. 初級文法を学び、基本的なドイツ語文の構造が理解できる。
3. 文法を応用してドイツ語で表現することができる。
4. やさしい文章の読解と並んで、ヒアリングとスピーキングにも慣れ親しむ。
5. ドイツ語圏（ドイツ、オーストリア、スイス）の生活文化の実情に関心をもち、世界に対し視野を広げる。
6. 医療分野で使用されるドイツ語関連の語彙を理解する。
7. ゲーテの格言「外国語を知らないものは、自国語についても無知である」にあるように、ドイツ語を通して日本（語）の理解を深める。

大項目	中項目	小項目
I. 現在時制、主文構造における表現	1. 動詞の人称変化と語順	1) 発音（母音）／規則動詞の現在人称変化 2) 発音（子音）／sein と haben の現在人称変化
	2. 基本的な格変化	1) 定冠詞と不定冠詞 2) 格の用法 3) 名詞の格変化 4) 定冠詞類と不定冠詞類 5) 名詞の複数 6) 人称代名詞 7) 前置詞 8) 前置詞の融合形
	3. 不規則な人称変化と助動詞構文	1) 幹母音変化動詞 2) 命令形 3) 話法の助動詞 4) 未来時制 5) 非人称動詞
II. 様々な時制・態・法および、副文構造における表現	1. 動詞の三基本形、主文と副文との関係	1) 前綴りと分離動詞 2) 副文構造 3) 動詞の三基本形 4) 過去人称変化 5) 完了時制 6) 再帰代名詞・再帰動詞
	2. 形容詞の各変化と比較変化、文章と文章・文章と句との関係	1) 形容詞の各変化・名詞化 2) 現在分詞、過去分詞 3) 序数詞 4) 形容詞・副詞の比較変化 5) zu 不定詞 6) 関係代名詞 7) 指示代名詞
	3. 動詞の様々な表現法	1) 受動態 2) 接続法

成績評価の方法：

年 2 回の筆記試験と出席状況をもとに総合的に評価する。

教科書：

秋田静男他 「ドイツ語インフォメーション neu 2」

朝日出版社

2012

参考図書：

週一時間の授業では、いかにしても学習量が少なすぎるので、NHK のテレビとラジオのドイツ語講座を聴くことを勧める。参考書は特に必要ないと思われるが、どうしてもという向きは、清野智昭著『ドイツ語のしくみ』（白水社）、中山豊著『中級ドイツ文法』（白水社）その他、図書館に備え付けのものを参照。

### <講義スケジュール>

1	2013.	4. 16	火	09:00～10:25	森 治	発音 (母音) /規則動詞 の現代人称変化 A	中教室
		4. 16	火	10:35～12:00	森 治	発音 (母音) /規則動詞 の現代人称変化 B	中教室
2		4. 23	火	09:00～10:25	森 治	発音 (子音) /sein と haben の現代人称変化 A	中教室
		4. 23	火	10:35～12:00	森 治	発音 (子音) /sein と haben の現代人称変化 B	中教室
3		5. 7	火	13:00～14:25	森 治	名詞の性と定冠詞・不定冠詞 A	中教室
		5. 7	火	14:35～16:00	森 治	名詞の性と定冠詞・不定冠詞 B	中教室
4		5. 14	火	09:00～10:25	森 治	格の用法 A	中教室
		5. 14	火	10:35～12:00	森 治	格の用法 B	中教室
5		5. 21	火	13:00～14:25	森 治	名詞の格変化 A	中教室
		5. 21	火	14:35～16:00	森 治	名詞の格変化 B	中教室
6		5. 28	火	09:00～10:25	森 治	定冠詞と不定冠詞類 A	中教室
		5. 28	火	10:35～12:00	森 治	定冠詞と不定冠詞類 B	中教室
7		6. 4	火	09:00～10:25	森 治	名詞の複数形 A	中教室
		6. 4	火	10:35～12:00	森 治	名詞の複数形 B	中教室
8		6. 11	火	09:00～10:25	森 治	人称代名詞 A	中教室
		6. 11	火	10:35～12:00	森 治	人称代名詞 B	中教室
9		6. 18	火	13:00～14:25	森 治	前置詞 A	中教室
		6. 18	火	14:35～16:00	森 治	前置詞 B	中教室
10		7. 2	火	09:00～10:25	森 治	前置詞の融合形 A	中教室
		7. 2	火	10:35～12:00	森 治	前置詞の融合形 B	中教室
11		7. 9	火	13:00～14:25	森 治	幹母音変化動詞 A	中教室
		7. 9	火	14:35～16:00	森 治	幹母音変化動詞 B	中教室
12		9. 3	火	09:00～10:25	森 治	命令形 A	中教室
		9. 3	火	10:35～12:00	森 治	命令形 B	中教室
13		9. 10	火	09:00～10:25	森 治	話法の助動詞 A	中教室
		9. 10	火	10:35～12:00	森 治	話法の助動詞 B	中教室
14		9. 17	火	13:00～14:25	森 治	未来時制 A	中教室
		9. 17	火	14:35～16:00	森 治	未来時制 B	中教室
15		9. 20	金	13:00～14:25	森 治	非人称動詞 A	中教室
		9. 20	金	14:35～16:00	森 治	非人称動詞 B	中教室
16		9. 24	火	09:00～10:25	森 治	前綴りと分離動詞 A	中教室
		9. 24	火	10:35～12:00	森 治	前綴りと分離動詞 B	中教室
17		10. 1	火	13:00～14:25	森 治	副文構造 A	中教室
		10. 1	火	14:35～16:00	森 治	副文構造 B	中教室
18		10. 8	火	13:00～14:25	森 治	動詞の 3 基本型 A	中教室
		10. 8	火	14:35～16:00	森 治	動詞の 3 基本型 B	中教室
19		10. 15	火	09:00～10:25	森 治	過去人称変化 A	中教室
		10. 15	火	10:35～12:00	森 治	過去人称変化 B	中教室
20		10. 22	火	13:00～14:25	森 治	完了時制 A	中教室
		10. 22	火	14:35～16:00	森 治	完了時制 B	中教室

ドイツ語 I (選)

<講義スケジュール>

21		10.29	火	09:00~10:25	森 治	再帰代名詞・再帰動詞 A	中教室
		10.29	火	10:35~12:00	森 治	再帰代名詞・再帰動詞 B	中教室
22		11.5	火	09:00~10:25	森 治	形容詞の格変化・名詞変化 A	中教室
		11.5	火	10:35~12:00	森 治	形容詞の格変化・名詞変化 B	中教室
23		11.12	火	13:00~14:25	森 治	現在分詞・過去分詞 A	中教室
		11.12	火	14:35~16:00	森 治	現在分詞・過去分詞 B	中教室
24		11.19	火	13:00~14:25	森 治	序数詞/形容詞・副詞の比較変化 A	中教室
		11.19	火	14:35~16:00	森 治	序数詞/形容詞・副詞の比較変化 B	中教室
25		12.10	火	09:00~10:25	森 治	zu 不定詞 A	中教室
		12.10	火	10:35~12:00	森 治	zu 不定詞 B	中教室
26	2014.	1.7	火	13:00~14:25	森 治	関係代名詞・指示代名詞 A	中教室
		1.7	火	14:35~16:00	森 治	関係代名詞・指示代名詞 B	中教室
27		1.14	火	09:00~10:25	森 治	受動態 1A	中教室
		1.14	火	10:35~12:00	森 治	受動態 1B	中教室
28		2.14	金	09:00~10:25	森 治	受動態 2A	中教室
		2.14	金	10:35~12:00	森 治	受動態 2B	中教室
29		2.18	火	13:00~14:25	森 治	接続法 A	中教室
		2.18	火	14:35~16:00	森 治	接続法 B	中教室
30		2.25	火	13:00~14:25	森 治	試験	中教室、視聴覚室

## 〔日本語学〕（選択科目）

科目責任者：今井 亨

## 【目的】

看護学部専門課程での学びのために必要な基礎的能力の一部である日本語力の涵養を目指す。

## 【到達目標】

本授業に出席し、活動に積極的に参加することにより、以下のような成果が得られることが期待され、専門課程で学ぶうえで必要かつ看護師としての将来につながる基礎的な能力の一部を養うことを目指す。

- ① 目的・関係性・相手の期待・媒体の特性および自分のコミュニケーション・スタイルに応じたコミュニケーションを理解できる。
- ② 看護学生としての基本的文章力の必要性と技能を理解できる。
- ③ 看護学生としての基本的文章力の技能を活用できる。
- ④ 文書を用いての口頭での報告・発表および質疑応答が効果的にできる。
- ⑤ 学び・気づき・変容を省察し、表現できるようになる。

大項目	中項目	小項目
I. 多様なコミュニケーション	1) 目的・状況・相手・媒体等に応じたコミュニケーション	1) 敬意・謙虚さ・思いやり・優しさ・誠意・熱意の伝達 2) 相手本位の表現 3) 適切かつ的確な質疑応答
II. 大学生としての基本的文章力	1) レポートの表現技術	1) 適切な語句を選んで用いる 2) 簡潔でねじれの無い文を書く 3) 適切な接続表現を用いる 4) 事実と意見を書き分ける 5) 具体的に書く 6) 参考文献・他者の発言を引用・要約する 7) 図表にまとめる 8) 図表の説明をする 9) 箇条書きを適切に用いる 10) パラグラフを活用して書く 11) 結果と考察を区別して書く 12) 根拠（理由・証拠）を述べる 13) 目的・読み手・字数に応じて調整して書く 14) 重要なことが際立つ構成で書く 15) 全体の構成・配分を考えて書く 16) 効率的かつ効果的に書くために準備をする 17) 提出前に推敲する
III. さまざまな文章への対応力	1) 学術レポート 2) 実用文	
IV. 文書を用いての口頭での報告・発表・質疑応答	1) レジュメを用いた発表 2) 報告書を用いての報告	

## 日本語学（選）

成績評価の方法：

授業への取り組み 40%、課題・テスト 60%

教科書：なし

参考図書：

- |            |  |         |      |
|------------|--|---------|------|
| 石井一成       | ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方                      | ナツメ社    | 2011 |
| 尾崎喜光       | しくみで学ぶ！正しい敬語                                   | ぎょうせい   | 2009 |
| 加藤重広       | 日本語文法入門ハンドブック                                  | 研究社     | 2006 |
| 君島浩        | IT21 叢書情報リテラシー編◇系統的トレーニング 日本語作文作法              | 日科技連出版社 | 2000 |
| 高谷修        | 看護学生のためのレポート・論文の書き方<br>—正しく学ぼう「書く基本」「文章の組み立て」— | 金芳堂     | 2001 |
| 中井浩一       | 正しく読み、深く考える日本語論理トレーニング<br>(講談社現代新書 1981)       | 講談社     | 2009 |
| 二通信子・大島弥生他 | 留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック                   | 東京大学出版会 | 2009 |
| 松本茂・河野哲也   | 大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法                   | 玉川大学出版部 | 2007 |
| 渡辺由佳       | スラスラ話せる 敬語入門                                   | かんき出版   | 2006 |

## ＜講義スケジュール＞

1	2013.	7.12	金	14:35～16:00	今井 亨	敬語 1～敬語の 5 分類～	大教室
2		7.12	金	16:10～17:35	今井 亨	敬語 2～まちがいがやすい表現～	大教室
3		10.4	金	14:35～16:00	今井 亨	文章の要約演習 1	大教室
4		10.4	金	16:10～17:35	今井 亨	要約法 1～話題とキーワード・定義～	大教室
5		10.11	金	14:35～16:00	今井 亨	文章の要約演習 2	大教室
6		10.11	金	16:10～17:35	今井 亨	要約法 2～構成と展開～	大教室
7		10.18	金	14:35～16:00	今井 亨	文章の要約演習 3	大教室
8		10.18	金	16:10～17:35	今井 亨	要約法 3～構成を導く指標語句～	大教室
9		10.25	金	14:35～16:00	今井 亨	文章の要約演習 4	大教室
10		10.25	金	16:10～17:35	今井 亨	要約法 4～主張に関わる論法～	大教室
11		11.1	金	14:35～16:00	今井 亨	要約法まとめ	大教室
12		11.1	金	16:10～17:35	今井 亨	文章の要約テスト	大教室
13		11.8	金	14:35～16:00	今井 亨	文法 1～品詞分類～	大教室
14		11.8	金	16:10～17:35	今井 亨	文法 2～可能・使役表現～	大教室
15		11.15	金	14:35～16:00	今井 亨	意見文の論評演習 1	大教室
16		11.15	金	16:10～17:35	今井 亨	作文法 1～情報の整理と立場の決定～	大教室
17		11.22	金	14:35～16:00	今井 亨	意見文の論評演習 2	大教室
18		11.22	金	16:10～17:35	今井 亨	作文法 2～文の組み立て～	大教室
19		12.6	金	14:35～16:00	今井 亨	意見文の論評演習 3	大教室
20		12.6	金	16:10～17:35	今井 亨	作文法 3～判断と論拠～	大教室
21		12.13	金	14:35～16:00	今井 亨	作文法まとめ	大教室
22		12.13	金	16:10～17:35	今井 亨	意見文の論評テスト	大教室
23	2014.	1.10	金	14:35～16:00	今井 亨	ことばの選択と辞書の活用	大教室

[美術]（選択科目）

科目責任者：山本直彰

科目担当者：山本直彰、伊東玲子

目的

現代社会は利益と効率に追われ、人間の本来持っている能力である創造性と感受性が軽視されている。美術を通して医者と患者の間の立場に立つ人の感性を高め、豊かな情操を養い、人間性を豊かにする。

到達目標

1. 無からものを産みだす創造の喜びを体験し、創造的な能力を高める。
2. 観ることによって、鑑賞の能力を伸ばし、感性を高め、美意識を磨く。
3. 人体を描くことで、人間を考え、その美を知る。
4. 自ら表現することで、潜在能力としてある各々の描く可能性を知り、自己を見つめ考える。
5. 美術、芸術、文化に対する理解と愛を深める。

大項目	中項目	小項目
I. 美術とは何か		1) 描かれた「病」 2) 医学と芸術 3) 青春の自画像 4) 現代絵画入門
II. 描く	1. デッサン 2. 着色画 3. 模写	1) 自画像 2) 人物画 3) 静物画 4) 抽象画 5) 古典の模写
III. 観る	1. 芸術鑑賞	1) 日本美術史 2) 現代の美術とデザイン （美術館見学） 3) 映画の中の看護師

成績評価の方法：出席、作品による評価となる。

教科書： なし

参考図書：

山梨俊夫

現代絵画入門

中公新書

日本の絵巻 ・ 鳥獣戯画

中央公論社

橋口幸子

珈琲とエアクレアと詩人 スケッチ・北村太郎

港の人

## &lt;講義スケジュール&gt;

1	2013.	4. 16	火	13:00～14:25	山本直彰	いのちの看護とアート		中教室
2		4. 16	火	14:35～16:00	山本直彰	デッサン		中教室
3		4. 23	火	13:00～14:25	伊東玲子	描かれた青春		中教室
4		4. 23	火	14:35～16:00	伊東玲子	描く青春		中教室
5		5. 14	火	13:00～14:25	伊東玲子	鳥獣戯画の模写 1		中教室
6		5. 14	火	14:35～16:00	伊東玲子	鳥獣戯画の模写 2		中教室
7		5. 28	火	13:00～14:25	伊東玲子	日本画を描く 1		中教室
8		5. 28	火	14:35～16:00	伊東玲子	日本画を描く 2		中教室
9		5. 28	火	16:10～17:35	伊東玲子	日本画を描く 3		中教室
10		6. 4	火	13:00～14:25	伊東玲子	ねむの木美術館見学 1		ねむの木村
11		6. 4	火	14:35～16:00	伊東玲子	” 2		ねむの木村
12		7. 2	火	13:00～14:25	山本直彰	描かれた人体		中教室
13		7. 2	火	14:35～16:00	山本直彰	描く人体 1		中教室
14		7. 2	火	16:10～17:35	山本直彰	描く人体 2		中教室
15		9. 10	火	13:00～14:25	伊東玲子	ランプを作る		中教室
16		9. 10	火	14:35～16:00	伊東玲子	”		中教室
17		9. 24	火	13:00～14:25	伊東玲子	描く風景 1		中教室
18		9. 24	火	14:35～16:00	伊東玲子	描く風景 2		中教室
19		10. 15	火	13:00～14:25	山本直彰	旅する美術史 1	資料スライド	中教室
20		10. 15	火	14:35～16:00	山本直彰	” 2		中教室
21		10. 29	火	13:00～14:25	伊東玲子	描く日常 1		中教室
22		10. 29	火	14:35～16:00	伊東玲子	描く日常 2		中教室
23		11. 5	火	13:00～14:25	伊東玲子	描く心 1		中教室
24		11. 5	火	14:35～16:00	伊東玲子	描く心 2		中教室
25		12. 10	火	13:00～14:25	伊東玲子	美術鑑賞(資生堂アートハウス、資料館)		アートハウス
26		12. 10	火	14:35～16:00	伊東玲子	”		アートハウス
27	2014.	1. 14	火	13:00～14:25	山本直彰	医学とアート		中教室
28		1. 14	火	14:35～16:00	山本直彰	映画観賞		中教室
29		1. 28	火	13:00～14:25	伊東玲子	雛絵を描く 1		中教室
30		1. 28	火	14:35～16:00	伊東玲子	雛絵を描く 2		中教室

## 音楽（選）

### [音楽]（選択科目）

科目責任者：渡邊由美子

#### 目的

音楽の技術向上に加え、楽しさや心を合わせて演奏する重要性を感じ、仲間と作り上げた作品の成果を発表する喜びを感じながら演奏することができる。

#### 到達目標

1. 正しい音程を身につけることができる。
2. 他のパートを聴き分け、協調することの必要性が理解できる。
3. 多くの曲を確実に暗譜することができる。
4. 気持ちを込めて演奏する必要性を理解することができる。
5. 音楽を通じてコミュニケーションを図ることができる。
6. 施設、病院内コンサートへ参加し、その意義を考えることができる。

大項目	中項目	小項目
I. 音楽に必要な歌唱技術	1. 美しい声	1) 発声 2) 呼吸法 3) 姿勢 4) 音程 5) リズム 6) 言葉
II. 音楽を通しての人間形成	1. 人間性や感性の向上 2. 地域、患者との交流	1) 福祉施設でのコンサート 2) 病院内コンサート

#### 成績評価の方法：

出欠席状態、イベントの参加協力、学習態度による。（場合によっては、歌の試験有り）

#### 教科書：

女声合唱組曲：今日もひとつ

カワイ出版

コーラスをはじめた人のための二部合唱曲集 いとしのエリー

カワイ出版

#### 参考図書：

コンサートで歌いたい女声合唱の定番 ありがとう～蘇州夜曲

ヤマハミュージック

最新女声合唱曲集 天使の時

教育芸術社

橋本祥路ベストセレクション[同声(女声)編]

教育芸術社

女声合唱ソングブック 心の瞳

音楽之友社

女声合唱とピアノのための 花の詩

音楽之友社

## ＜講義スケジュール＞

1	2013.	4. 26	金	13:00～14:25	渡邊由美子	歌唱技術 1 ソプラノ、メゾ、アルトのパート分け	大教室
2		5. 17	金	13:00～14:25	渡邊由美子	歌唱技術 2 呼吸法・歌唱・発声法 1	オーキッドホール
3		5. 24	金	10:35～12:00	渡邊由美子	歌唱技術 3 呼吸法・歌唱・発声法 2	オーキッドホール
4		5. 27	月	16:10～17:35	渡邊由美子	歌唱技術 4 呼吸法・歌唱・発声法 3	オーキッドホール
5		6. 7	金	13:00～14:25	渡邊由美子	歌唱技術 5 呼吸法・歌唱・発声法 4	オーキッドホール
6		6. 14	金	13:00～14:25	渡邊由美子	歌唱技術 6 呼吸法・歌唱・発声法 5	オーキッドホール
7		6. 21	金	13:00～14:25	渡邊由美子	歌唱技術 7 呼吸法・歌唱・発声法 6	オーキッドホール
8		7. 5	金	16:10～17:35	渡邊由美子	歌唱技術 8 呼吸法・歌唱・発声法 7	オーキッドホール
9		7. 11	木	13:00～14:25	渡邊由美子	歌唱技術 9 呼吸法・歌唱・発声法 8	オーキッドホール
10		9. 2	月	16:10～17:35	渡邊由美子	歌唱技術 10 呼吸法・歌唱・発声法 9	オーキッドホール
11		9. 13	金	13:00～14:25	渡邊由美子	歌唱技術 11 呼吸法・歌唱・発声法 10	オーキッドホール
12		9. 20	金	16:10～17:35	渡邊由美子	歌唱技術 12 呼吸法・歌唱・発声法 11	オーキッドホール
13		9. 27	金	13:00～14:25	渡邊由美子	歌唱技術 13 呼吸法・歌唱・発声法 12	オーキッドホール
14		10. 4	金	13:00～14:25	渡邊由美子	歌唱技術 14 呼吸法・歌唱・発声法 13	オーキッドホール
15		10. 11	金	13:00～14:25	渡邊由美子	歌唱技術 15 呼吸法・歌唱・発声法 14	オーキッドホール
16		10. 18	金	13:00～14:25	渡邊由美子	歌唱技術 16 呼吸法・歌唱・発声法 15	オーキッドホール
17		10. 25	金	13:00～14:25	渡邊由美子	歌唱技術 17 呼吸法・歌唱・発声法 16	オーキッドホール
18		11. 1	金	13:00～14:25	渡邊由美子	歌唱技術 18 呼吸法・歌唱・発声法 17	オーキッドホール
19		11. 8	金	13:00～14:25	渡邊由美子	歌唱技術 19 呼吸法・歌唱・発声法 18	オーキッドホール
20		11. 15	金	13:00～14:25	渡邊由美子	歌唱技術 20 呼吸法・歌唱・発声法 19	オーキッドホール
21		11. 22	金	13:00～14:25	渡邊由美子	歌唱技術 21 呼吸法・歌唱・発声法 20	オーキッドホール
22		12. 6	金	13:00～14:25	渡邊由美子	歌唱技術 22 呼吸法・歌唱・発声法 21	オーキッドホール
23		12. 13	金	13:00～14:25	渡邊由美子	歌唱技術 23 呼吸法・歌唱・発声法 22	オーキッドホール
24	2014.	1. 10	金	13:00～14:25	渡邊由美子	歌唱技術 24 呼吸法・歌唱・発声法 23	オーキッドホール
25		1. 14	火	16:10～17:35	渡邊由美子	歌唱技術 25 呼吸法・歌唱・発声法 24	オーキッドホール
26		1. 22	水	13:00～14:25	渡邊由美子	歌唱技術 26 呼吸法・歌唱・発声法 25	オーキッドホール
27		1. 28	火	16:10～17:35	渡邊由美子	歌唱技術 27 呼吸法・歌唱・発声法 26	オーキッドホール
28		2. 5	水	13:00～14:25	渡邊由美子	歌唱技術 28 呼吸法・歌唱・発声法 27	オーキッドホール
29		2. 14	金	13:00～14:25	渡邊由美子	歌唱技術 29 呼吸法・歌唱・発声法 28	オーキッドホール
30		2. 21	金	13:00～14:25	渡邊由美子	歌唱技術 30 呼吸法・歌唱・発声法 29	オーキッドホール

各専門領域への発展

[情報科学演習 I]

科目責任者： 神山暢夫  
 科目担当者： 神山暢夫、伊東栄子、  
 山下 桂、浅沼愛九

【目的】

現在の社会においては、IT は教育、医療を含めて様々な分野で必須のものとなっており、PC などにふれない日はない程となっている。情報科学演習 I では PC を一般の文具と同様に取り扱えるようになる事を目的とする。さらに、医療、看護の分野における情報の保護、管理といった基本的な知識を身につけ、情報を自らの手で利用できるようにする事が目標である。

【到達目標】

1. PC で取り扱う情報の概念を理解する。
2. 情報を保護、管理する能力を身につける。
3. レポート、グラフ、図表の作成を PC で行える能力を身につける。

大項目	中項目	小項目
I. 情報と知識	1. 情報の概念	1) 情報と医療 2) 情報と看護 3) 情報の管理
II. 情報処理の基礎	1. 情報の収集	1) インターネットと検索
	2. 文章による情報処理	1) 日本語変換 2) 文字の修飾、レイアウト 3) 文章構成
	3. データの処理	1) 表の作成 2) 数値の処理と解析 3) グラフ
	4. 情報の統合	1) 図、グラフの作成 2) 図、グラフの処理

成績評価の方法：レポート、出席状況による。

教科書：なし

<講義スケジュール>

1	2013.	4.16	火	16:10~17:35	神山暢夫	情報科学演習の概要／看護と情報	大教室
2		4.23	火	16:10~17:35	神山暢夫	情報の倫理と管理	大教室
3		5.8	水	09:00~10:25	神山・伊東	B コンピュータの基本操作	情報実習室
3		5.8	水	10:35~12:00	神山・伊東	A コンピュータの基本操作	情報実習室
4		5.15	水	09:00~10:25	山下・浅沼	B コンピュータを用いた情報収集	情報実習室
4		5.15	水	10:35~12:00	山下・浅沼	A コンピュータを用いた情報収集	情報実習室
5		5.22	水	09:00~10:25	神山・伊東	B ワードプロ：日本語変換と文字入力	情報実習室
5		5.22	水	10:35~12:00	神山・伊東	A ワードプロ：日本語変換と文字入力	情報実習室
6		5.29	水	09:00~10:25	神山・伊東	B ワードプロ：文書作成	情報実習室
6		5.29	水	10:35~12:00	神山・伊東	A ワードプロ：文書作成	情報実習室
7		6.5	水	09:00~10:25	神山・伊東	B ワードプロ：文書レイアウトと装飾	情報実習室
7		6.5	水	10:35~12:00	神山・伊東	A ワードプロ：文書レイアウトと装飾	情報実習室
8		6.12	水	09:00~10:25	神山・伊東	B ワードプロ：レポート作成	情報実習室
8		6.12	水	10:35~12:00	神山・伊東	A ワードプロ：レポート作成	情報実習室
9		6.19	水	09:00~10:25	神山・伊東	B ワードプロ：レポートの保存、提出	情報実習室
9		6.19	水	10:35~12:00	神山・伊東	A ワードプロ：レポートの保存、提出	情報実習室
10		6.26	水	09:00~10:25	神山・伊東	B 表計算：文字および数値の入力	情報実習室
10		6.26	水	10:35~12:00	神山・伊東	A 表計算：文字および数値の入力	情報実習室
11		7.3	水	09:00~10:25	神山・伊東	B 表計算：データの処理	情報実習室
11		7.3	水	10:35~12:00	神山・伊東	A 表計算：データの処理	情報実習室
12		7.10	水	09:00~10:25	神山・伊東	B 表計算：数式処理と応用	情報実習室
12		7.10	水	10:35~12:00	神山・伊東	A 表計算：数式処理と応用	情報実習室
13		9.4	水	09:00~10:25	神山・伊東	B 表計算：グラフの作成と加工	情報実習室
13		9.4	水	10:35~12:00	神山・伊東	A 表計算：グラフの作成と加工	情報実習室
14		9.11	水	09:00~10:25	神山・伊東	B 統合：図や写真の処理	情報実習室
14		9.11	水	10:35~12:00	神山・伊東	A 統合：図や写真の処理	情報実習室
15		9.18	水	09:00~10:25	神山・伊東	B 課題作成	情報実習室
15		9.18	水	10:35~12:00	神山・伊東	A 課題作成	情報実習室

[キャリア発達論 I]

科目責任者：佐藤紀子

科目担当者：佐藤紀子、吉田澄恵、草柳かほる、山内英樹  
 守屋治代、菊池昭江、伊東栄子、松寄英士  
 味木由佳、天野陽子、鈴木順子、山本さとみ  
 【医学部】鈴木光代、八木淳二、中村裕子  
 佐藤 梓、浦瀬香子、辻野賢治、清水一彦  
 菰池勇太、岡田みどり

**【科目の目的】** キャリアを「生涯を通しての人の生き方」と定義し、看護学を学ぶことを選択した成人として、自己のキャリアを考え続ける基本的態度を身につける。合わせて、看護専門職者を指すものとして、組織の中で調和しながら変革を推進し職業を継続するための基礎的な知識を学ぶ。

**【1年次の目的】** 看護学を選択した自己の今までのキャリアを振り返り、学士課程における学びの指標を考え実行する。そのために、学士課程学生同士、医学部学生との交流を通して協働についての態度を養う。また、キャリア発達の基盤となるセルフケア能力や自己開発能力を身につけるとともに、組織行動学の一部を学習する。

**【到達目標】**

1. 入学までの自己のキャリアを振り返り、学士課程における学びの展望を述べるができる。
2. 生活の基盤となる食のセルフケアの重要性について知り、調理実習を通して具体的な生活について述べるができる。
3. 学士課程の上級生との交流を通して学生生活を知るとともに、協働の基本について実践的に考え、述べるができる。
4. 医学部1年生との交流を通して、医療チームにおける協働の基礎的な考え方について述べるができる。
5. 組織における個人と集団の特性を理解し、組織の一員としての自己の在り方を考え、述べるができる。

大項目	中項目	小項目
I. 看護職の生涯発達	1. キャリアとは	1) キャリアについて 2) 学士課程におけるキャリアプラン
II. キャリアと生活	1. 食のセルフケア	1) セルフケアの意義の理解 (フォーラム) 2) 調理実習を通じた食の自立と実践
II. 組織と個人	1. 個人と集団	1) 個人の行動の基礎 2) 「動機づけ」のコンセプトと応用 3) 集団行動の基礎 4) 「チーム」の理解
III. 協働の基礎	1. 学部上級生との交流 2. 女性医療者としての自己認識	1) NHRへの参加 2) 次年度NHRの準備 1) 看護技術の学習を通じた医学部生との交流 2) テュートリアル形式での医学部生との意見交換 3) 各々の立場や考え方への理解

## キャリア発達論Ⅰ

成績評価の方法：出席状況、課題への取り組みの態度、レポートによる。

教科書：なし

参考図書：その都度紹介

### <講義スケジュール>

1	2013. 4. 17	水	13:00～14:25	佐藤、吉田 草柳、伊東 菊池、味木	科目ガイダンス：キャリアについて 学士課程におけるキャリアプラン	大教室
2			14:35～16:00			
3	4. 25	木	16:10～17:35	鈴木、伊東	食のフォーラム	大教室
4	5. 8	水	13:00～14:25	鈴木、山本 <sup>さ</sup> 伊東、吉田	調理実習 A	栄養実習室
5			14:35～16:00			
4	5. 9	木	9:00～10:25	鈴木、山本 <sup>さ</sup> 伊東	調理実習 B	栄養実習室
5			10:35～12:00			
4	5. 10	金	9:00～10:25	鈴木、山本 <sup>さ</sup> 伊東、草柳	調理実習 C	栄養実習室
5			10:35～12:00			
6	5. 31	金	13:00～14:25	佐藤、草柳 吉田、味木 天野	NHR(看護学部人間関係論)	河田町キャンパス
7			14:35～16:00			
8	7. 3	水	13:00～14:25	佐藤紀子	組織と個人①：個人の行動の基礎 組織と個人②：動機づけ理論	大教室
9			14:35～16:00			
10	9. 2	月	10:35～12:00	守屋、菊池 味木、天野	医学部看護学部協働教育技術演習	看護実習室他
11	9. 3	火	13:00～14:25	菊池、味木 他※1	医学部看護学部協働教育 A	看護実習室他
12			14:35～16:00			
13			16:10～17:35			
11	9. 4	水	13:00～14:25	守屋、味木 他※1	医学部看護学部協働教育 B	看護実習室他
12			14:35～16:00			
13			16:10～17:35			
11	9. 5	木	13:00～14:25	守屋、天野 他※1	医学部看護学部協働教育 C	看護実習室他
12			14:35～16:00			
13			16:10～17:35			
11	9. 6	金	13:00～14:25	菊池、味木 他※1	医学部看護学部協働教育 D	看護実習室他
12			14:35～16:00			
13			16:10～17:35			
14	9. 18	水	13:00～14:25	佐藤紀子	組織と個人③集団行動の基礎 組織と個人④チームの理解	大教室
15			14:35～16:00			

※1には、吉田澄恵、草柳かほる、山内英樹、鈴木光代、八木淳二、中村裕子、佐藤 梓、浦瀬香子、辻野賢治、清水一彦、菰池勇太、岡田みどり が分担して加わる。

〔国際看護コミュニケーションⅠ〕 (選択科目) : ハワイ・パシフィック大学

科目責任者: 木村みどり

科目担当者: 木村みどり

【目的】

実体験を通して、英語によるコミュニケーション、ハワイ州およびアメリカの医療、歴史、文化、伝統、社会状況を学ぶ

【到達目標】

1. 簡単な会話を英語で行うことができる。
2. ハワイ・パシフィック大学 (HPU) での講義を、できるだけ英語で理解する。
3. 英語で日本を紹介するプレゼンテーションをすることができる。
4. 日米の歴史のつながりについて理解する。

大項目	中項目	小項目
Ⅰ.スピーキング	1. 海外生活のための英会話	1) 飛行場や税関における英会話 2) ホテルにおける英会話 3) 様々な交通手段を利用するときの英会話 4) 買い物をするときの英会話
	2. 英語によるスピーチ	1) 自分や家族、東京女子医科大学について話す 2) 日本の医療について話す 3) 与えられたテーマについて話す
Ⅱ.リスニング	3. 必要な情報を英語で聞き取る	1) 日常生活におけるコミュニケーション 2) アメリカやハワイの歴史 3) アメリカの医療

評価方法: 日本での事前研修態度、HPUでの授業態度、プレゼンテーションの成果  
ハワイでの街頭インタビュー(6人以上)の総合

教科書:

特に指定せず、必要に応じてプリントを配布する

参考資料:

佐藤 公雄 編著                      First Time Abroad   「初めての海外旅行」                      成美堂                      1997  
その他、必要に応じてプリントを配布する

<講義スケジュール>

1	2013. 5. 23	木	10:35~12:00	木村みどり	オリエンテーション
2	6. 6	木	16:10~17:35	木村みどり	自己紹介の練習
3	6. 20	木	16:10~17:35	木村みどり	インタビューの練習
4	6. 21	金	09:00~10:25	木村みどり	ハワイの歴史について学ぶ
5	6. 21	金	10:35~12:00	木村みどり	日系移民・日米戦争について学ぶ
6	7. 4	木	10:35~12:00	木村みどり	各グループによるプレゼンテーションの練習(1)
7	7. 11	木	14:35~16:00	木村みどり	各グループによるスピーチの練習(2)
8	7. 11	木	16:10~17:35	木村みどり	各グループによるスピーチの練習(3)
9	7. 12	金	09:00~10:25	木村みどり	各グループによるスピーチの練習(4)
10	7. 12	金	10:35~12:00	木村みどり	各グループによるスピーチの練習(5)
11	7. 23	月			出発
12					グループ・プレゼンテーションの練習(7) 英語によるグループ・プレゼンテーション ハワイ・パシフィック大学にて授業 クイーンズ・メディカルセンター訪問 ハワイについて調査したことの復習 フィールドワーク
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28	7. 30	火			帰国
29	9. 12	木	10:35~12:00	木村みどり	帰国報告会の準備
30	9. 12	木	13:00~13:40	木村みどり	帰国報告会

## 授業担当教員一覧

## 看護学部第1学年授業担当教員

### [専任教員]

人文社会学系

心理学 准教授 松寄 英士  
英語 教授 木村 みどり

基礎科学系

生理学 准教授 神山 暢夫  
生化学 准教授 伊東 栄子

臨床医学系

内科学 教授 荒井 純子  
外科学 准教授 尾崎 恭子

看護学系

基礎看護学 教授 守屋 治代  
准教授 菊池 昭江  
講師 見城 道子  
講師 加藤 京里  
助教 味木 由佳  
助教 天野 陽子  
看護職生涯発達学 教授 佐藤 紀子  
准教授 吉田 澄恵  
講師 草柳 かほる  
助教 山内 英樹

### [兼任教員]

情報科学演習 I

司書 山下 桂  
司書 浅沼 愛九

### [兼任教員]

基礎看護学

講師 徳田 玲子

生物としての人間

講師 鳥山 優

人間発達論

講師 林 智幸

哲学

講師 井沼 一

生活科学論

講師 松本 佳子

史学

講師 中込 律子

人間工学

講師 久宗 周二

フィットネスの理論と実技

講師 金子 慧

英語 I - 1

講師 宮原 葉

講師 森 真由子

ドイツ語 I

講師 森 治

日本語学

講師 今井 亨

美術

講師 山本 直彰

講師 伊東 玲子

音楽

講師 渡邊 由美子

### [医学部・看護学部協働教育 担当教員]

微生物学免疫学

教授 八木 淳二

解剖学・発生生物学

助教 清水 一彦

衛生学公衆衛生学 (一)

准講師 蔭池 勇太

化学

教授 岡田 みどり

講師 中村 裕子

助教 佐藤 梓

生物学

助教 浦瀬 香子

物理学

助教 辻野 賢治

英語学

准教授 鈴木 光代